

誰でも分かる & 使える！

生成AI & AIエージェント 最新活用術

～驚きの機能とその使い方



各種ガイドブックの
ご紹介はこちら



 サテライトオフィス
Sateraito Office



お問い合わせ

株式会社 サテライトオフィス

TEL 050-5835-0396

FAX 050-6861-2893

<https://www.sateraito.jp>

〒135-0016 東京都江東区東陽4-3-1 東陽町信栄ビル4階



株式会社 ネクストセット

TEL 050-5835-1092

<https://www.nextset.co.jp>



このカタログに記載された情報は、2026年1月現在のものです。仕様は予告なしに変更することがあります。
Copyright (C) 2026 Sateraito Office, Inc. All rights reserved. Sateraito Office、サテライト オフィスは、株式会社サテライトオフィスの名称、商標または登録商標です。
その他、各会社名、各製品名は、各社の商標または登録商標です。

誰でも分かる&使える！ 生成AI&AIエージェント最新活用術 ～驚きの機能とその使い方

CONTENTS

序章 進化が止まらない生成AI、そしてこれからは「AIエージェント」の時代 1

第1章 ChatGPT編

- 1-1 Deep Researchで深く分析する 2
- 1-2 画像を作る 7
- 1-3 動画を作る 10
- 1-4 オリジナルのチャットボット(カスタムGPT)を作る 14
- 1-5 ChatGPTのエージェントモードで複数の処理をまとめて自律的に実行する 17

第2章 Gemini編

- 2-1 Deep Researchでレポートを作る 21
- 2-2 画像を作る 25
- 2-3 動画を作る 29
- 2-4 カスタムのチャットボットを作る(Gemの作成) 32

第3章 NotebookLM編

- 3-1 ソースを登録して自分だけのチャットボットを作る 36
- 3-2 ソースをもとに音声や動画、レポートなどの独自コンテンツを作る 39

第4章 その他の生成AIサービス

- 4-1 Genspark(ジェンスパーク)～目的別のAIエージェントが豊富に揃ったAI検索エンジン 43
- 4-2 Claude(クロード)～ChatGPTやGeminiと並ぶ安全と信頼を重視する生成AIサービス 45
- 4-3 Perplexity(パープレキシティ)～複数のモデルを組み合わせて多角的な調査が可能 46
- 4-4 Manus(マナス)～さまざまなタスクをこなす自律型AIエージェント 48
- 4-5 Dify(ディファイ)～ノーコード/ローコードの生成AIアプリ開発サービス 50

第5章 サテライトオフィスのAIサービス

- 5-1 サテライトオフィスが提供しているAIサービス一覧(2026年1月現在) 52

序章

進化が止まらない生成AI、 そしてこれからは「AIエージェント」の時代

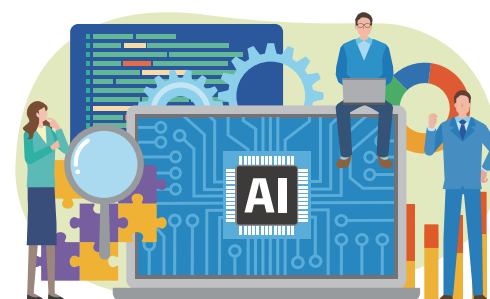
進化が止まらない生成AI

OpenAI(オープンエーアイ)が2022年11月末にChatGPT(チャットジーピーティー)をリリースして以降、生成AIは急速に進化し、性能も機能も大きく向上しました。できることも大幅に増えています。当初は人と会話できるだけでしたが、現在では高度なレポートを作成したり画像や動画を生成したりできるまでに進化しました。

企業間の開発競争も激化しています。OpenAIやGoogle(グーグル)、Anthropic(アンソロピック)などの米国企業、さらに最近は中国のIT企業も含めて熾烈な競争を繰り広げ、新しい機能やサービスが次々とリリースされています。

私たちの社会や生活も大きく変わりつつあります。さまざまな製品やサービスにAIが活用されて便利になる一方、ホワイトカラーの仕事がAIに奪われる懸念も高まっています。

生成AIの進化は、まだまだ続きそうです。それにとまって、私たちの社会、経済、文化が大きな影響を受けるのは確かですが、その未来を誰も正確に予想できないのが、現在の状況ではないでしょうか。

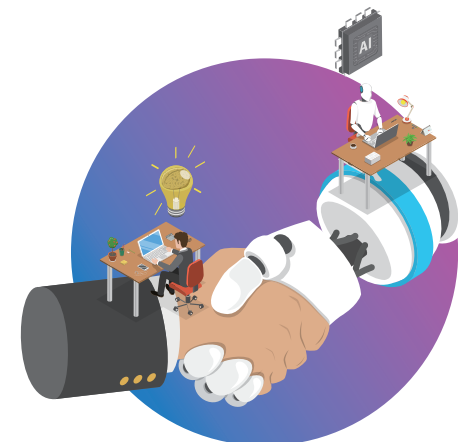


AIエージェントとは？

生成AIに関するトピックで、最近特に注目を集めているのが「AIエージェント」です。これは、「目標を達成するために最適な手段を自動的に判断・選択して自律的にタスクを実行するAI」のことです。

ChatGPTのようなチャット型のAIの特徴は、人間が質問すると、それに対して回答する一問一答形式であることです。これに対して、AIエージェントは人間が指示を出したら、それに必要なさまざまな調査や作業を自動的に判断・実行します。たとえば、「来週、営業全員参加の会議をスケジュールして」と指示すると、メンバー全員の空いている時間帯を調べ、空いている会議室を調べて自動的に予約し、予約できたら、メンバー全員にメールで連絡する、といったタスクを自動的に実行します。

このように、従来は人間にしかできなかった複雑な業務をAIエージェントが代行することで生産性が向上し、人間はより高度な判断だけ行ったり、まったく新しい業務を遂行したりできるようになると考えられています。



OpenAIとGoogleが牽引する生成AI

現在、日本も含めて世界中の企業が生成AIやAIエージェントのサービスを開発しています。ただし、開発には膨大な資金と専門人材、高度なテクノロジーが必要とされることから、世界のAI開発をリードできる企業は、ある程度、限られています。本書では、こうした企業のうち、特にOpenAIとGoogleがリリースしている次の3つのサービスを中心に、生成AI、AIエージェントの最新機能を紹介します。

- AI ChatGPT(OpenAI)
- AI Gemini(Google)
- AI NotebookLM(Google)

もちろん、この2社以外にも有力な企業はたくさんありますので、こうした企業のサービスについては第4章で簡単に紹介します。

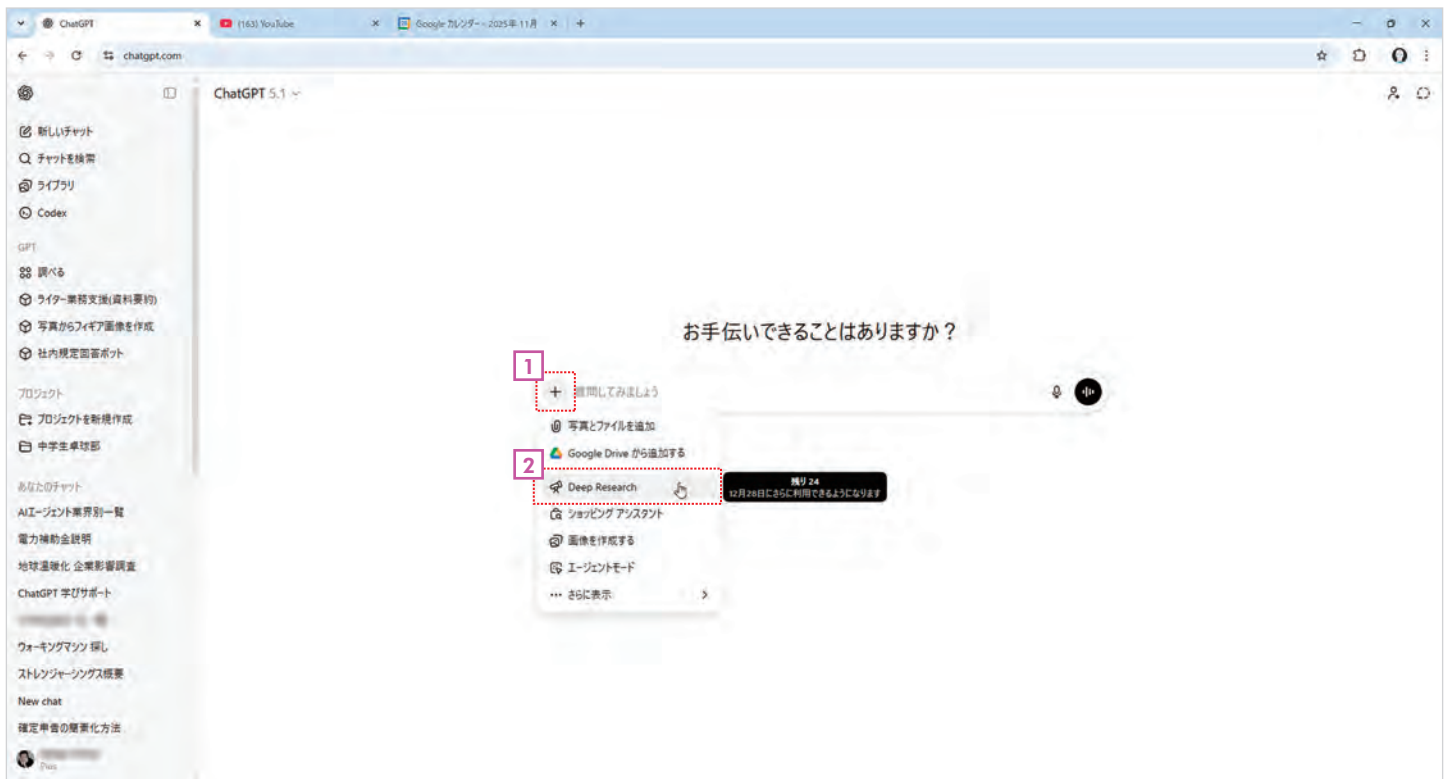
第1章 ChatGPT編

ChatGPT(チャットジーピーティー)はOpenAI(オープンエーアイ)が開発した生成AIです。生成AIの火付け役であり、現在も世界最先端のサービスを提供しています。ここでは、ぜひ活用したいChatGPTの先進機能について紹介します。

1-1 Deep Researchで深く分析する

ChatGPTの使い方は、ユーザーが質問するとそれに対して生成AIが回答を返す一問一答形式が一般的です。これに対して、Deep Research(ディープリサーチ)はより広範囲かつ多角的に情報を収集し、分析・整理して提示してくれます。特定のテーマについて、より広く・深く調査したいとき活用してください。ここでは、地球温暖化と企業活動の関係について調べてみましょう。

手順 Deep Researchで地球温暖化と企業活動の関係を分析する



1 [+]をクリックしてメニューを開きます。

2 🐼 [Deep Research]を選択します。



3 次のようなプロンプトを入力・送信します。

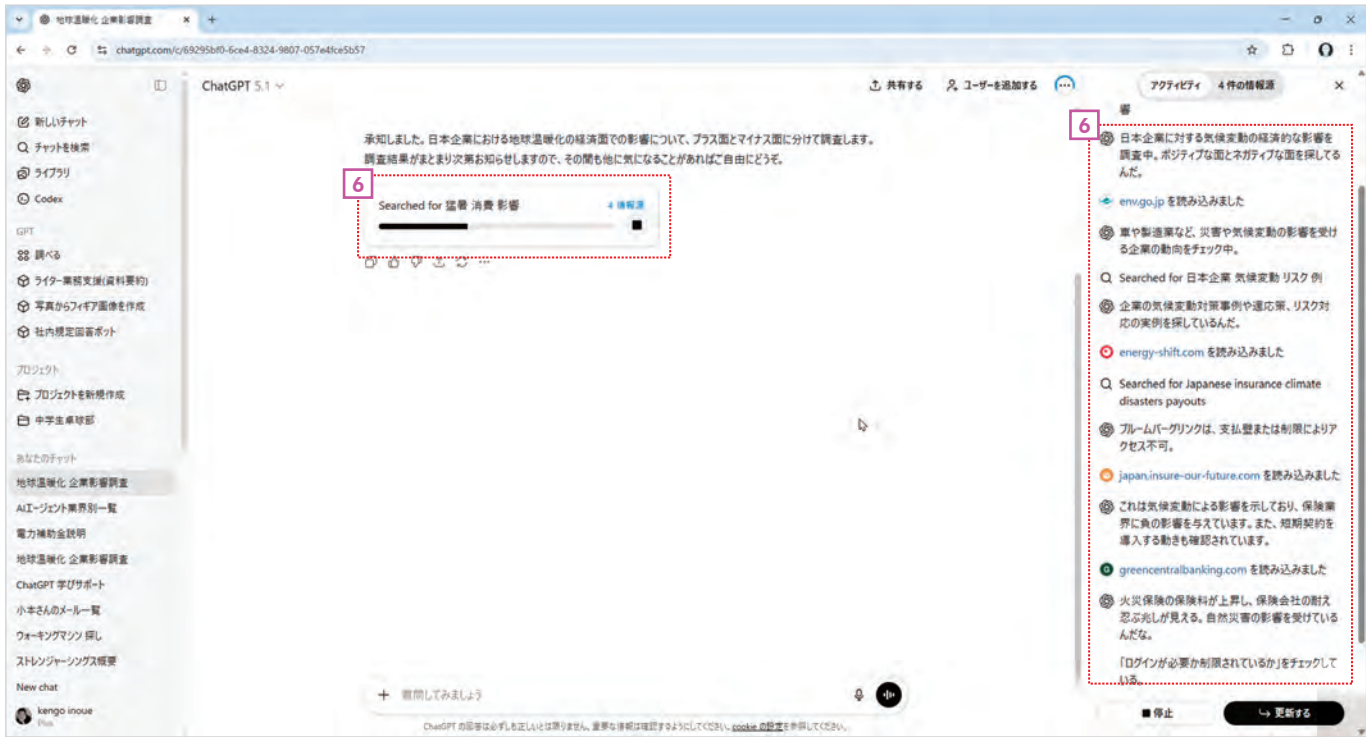
🌟 地球温暖化が企業活動に及ぼす影響をプラス面、マイナス面に分けて調べてください



4 調査に必要な追加情報をChatGPTが聞いてきます。

5 ここでは、次のようなプロンプトを入力・送信します。

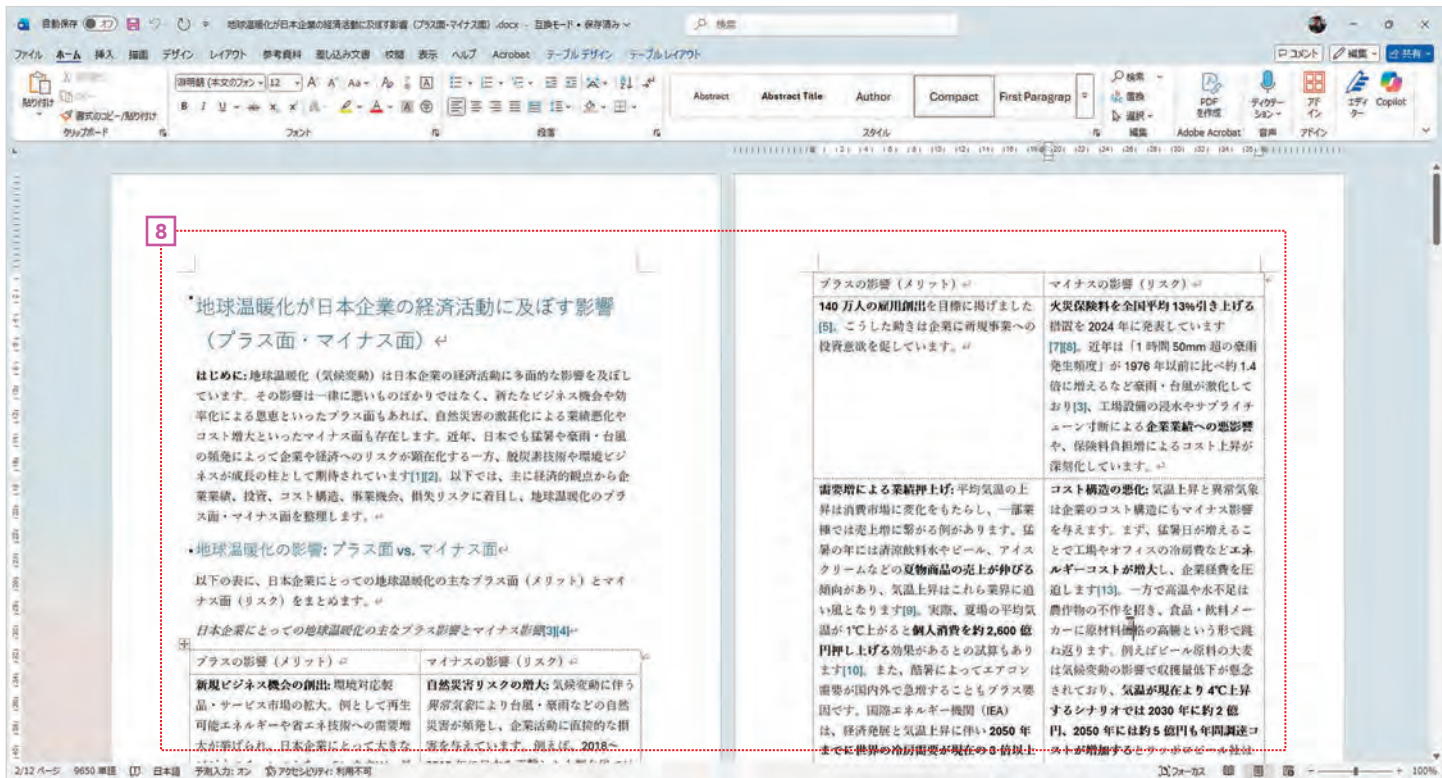
🌟 日本企業に注目し、主に経済面での影響を調査してください



6 リサーチがスタートします。内容にもよりますが、分析にはある程度の時間がかかります。今回の調査は約10分でした。



7 調査結果が表示されます。



8 調査結果はPDFやWordのファイルとしてダウンロードできます。画面はWordファイルです。A4で12ページ、約1万文字の詳細なレポートです。



Deep Researchの回数制限

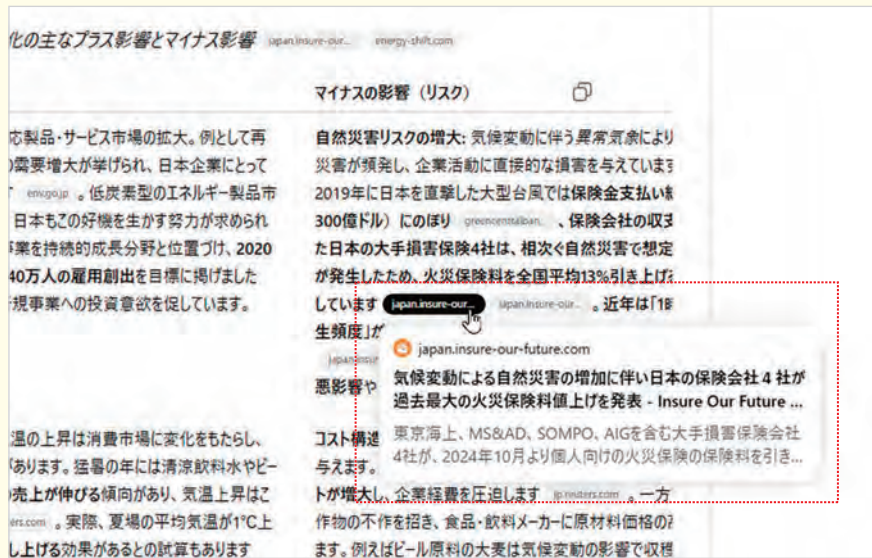
Deep Researchには、プランによって回数の制限があります(2026年1月時点)。

無料	……5回/月
Plus/Team/Enterprise/Edu	……25回/月
Pro	……250回/月



調査結果の根拠を確認する

調査結果には、分析結果の根拠となった情報源へのリンクが埋め込まれています。クリックすると、リンク先のサイトやPDFを表示できます。

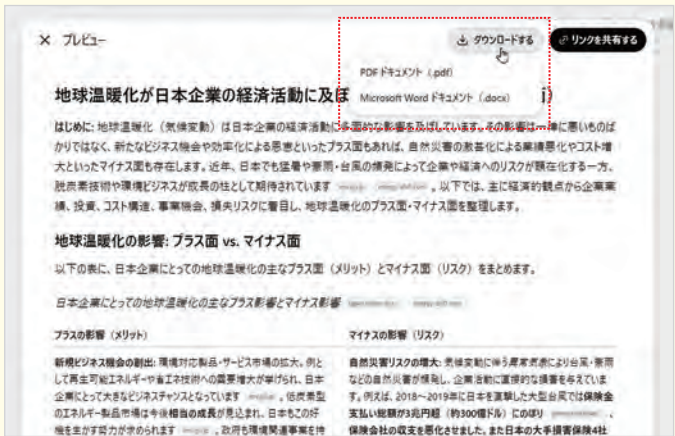


調査結果のダウンロード

結果の左上または左下にある  をクリックしたあと、[ダウンロードする]をクリックすれば、PDFまたはWord形式のファイルとしてダウンロードできます。



 をクリックします。



 [ダウンロードする]をクリックしてPDF/Wordを選択できます。



必要な情報はChatGPTが聞いてくれる

最初から完璧な質問をする必要はありません。曖昧な疑問を投げかけると、必要な情報をChatGPTが聞いてくれるので、それに答えることで効果的な調査を実施することができます。

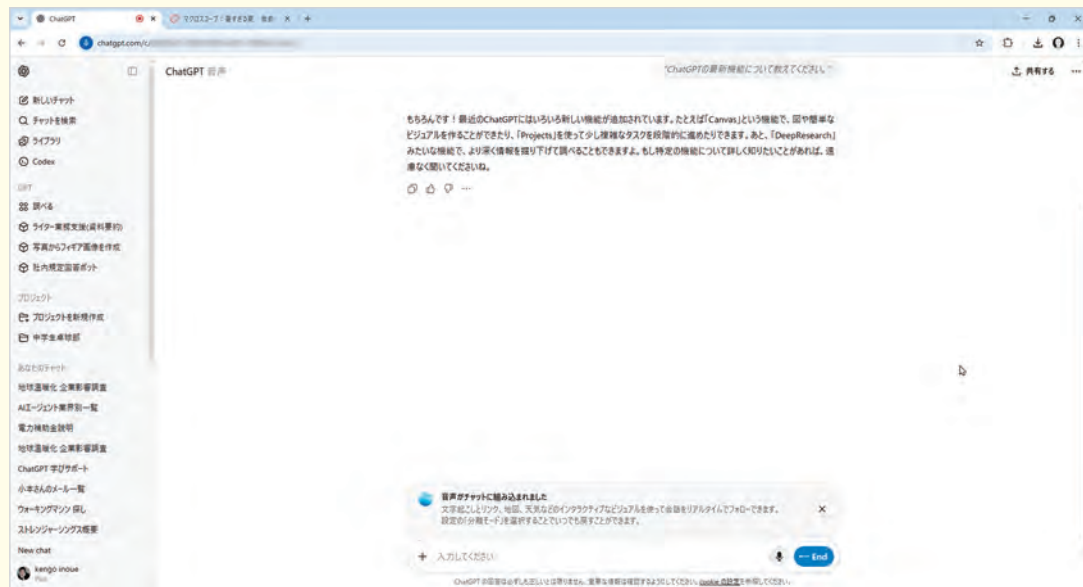


AIと会話でコミュニケーションしよう(音声モードの活用)

●[音声モードを使用する]をクリックすると、生成AIと対話できる**音声モード**に切り替わります。人間と会話するのと同じように話しかけてみてください。生成AIが話している途中で話しかけたり、まとまりのないまま話したりしても、自然に会話を続けることができます。なお、**音声モード**はスマートフォン用のアプリでも利用できます。



●[音声モードを使用する]をクリックします。

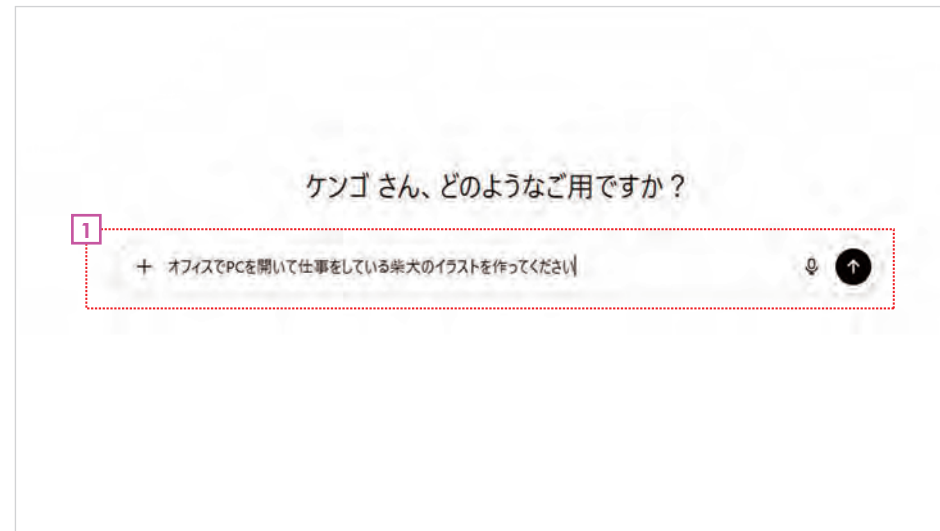


音声モード。人間のように会話できます。

1-2 画像を作る

ChatGPTを使えば、テキストから画像を生成したり、既存の画像をもとに新しい画像を作ったりできます。ここでは、いくつかの例を紹介します。

手順 テキストから画像を作る



1 作りたい**画像**を表現する文章を入力します。ここでは、以下のプロンプトを入力・送信します。

✨ オフィスでPCを開いて仕事をしている柴犬のイラストを作ってください



2 画像が生成されます。

3 続けて、以下のプロンプトを入力・送信します。

✨ もっとラフな服装をしたITベンチャーっぽい雰囲気
で、メガネをかけたかわいい柴犬にしてください

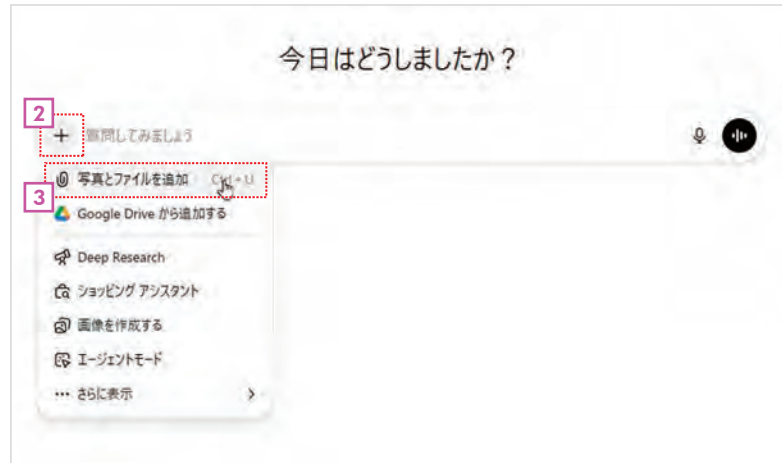


4 画像が生成されます。このように、対話しながら目的の画像を作成することができます。

手順 画像をアップロードして加工する



1 この画像をアップロードして加工してみます。



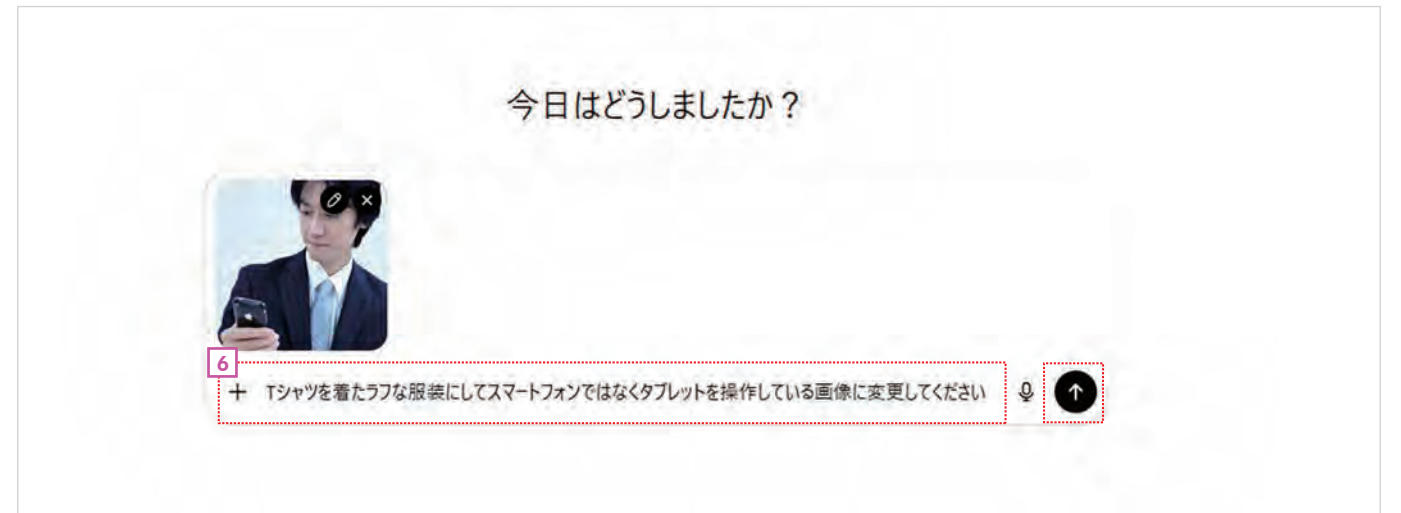
2 [+]をクリックしてメニューを開きます。

3 ④ [写真とファイルを追加]を選択します。



4 画像ファイルを指定します。

5 [開く]をクリックします。



6 画像ファイルが設定されたら、次のようなプロンプトを入力・送信します。

✦ Tシャツを着たラフな服装にしてスマートフォンではなくタブレットを操作している画像に変更してください



7 画像が作成されます。このように、テキストで指示することで画像を自由に加工することができます。



テキストから説明用の図を作る

ChatGPTを使うと、テキストから説明用の図を作ることができます。たとえば、右はインフルエンザの代表的な症状を表現した図です。これは、次のプロンプトで作りました。

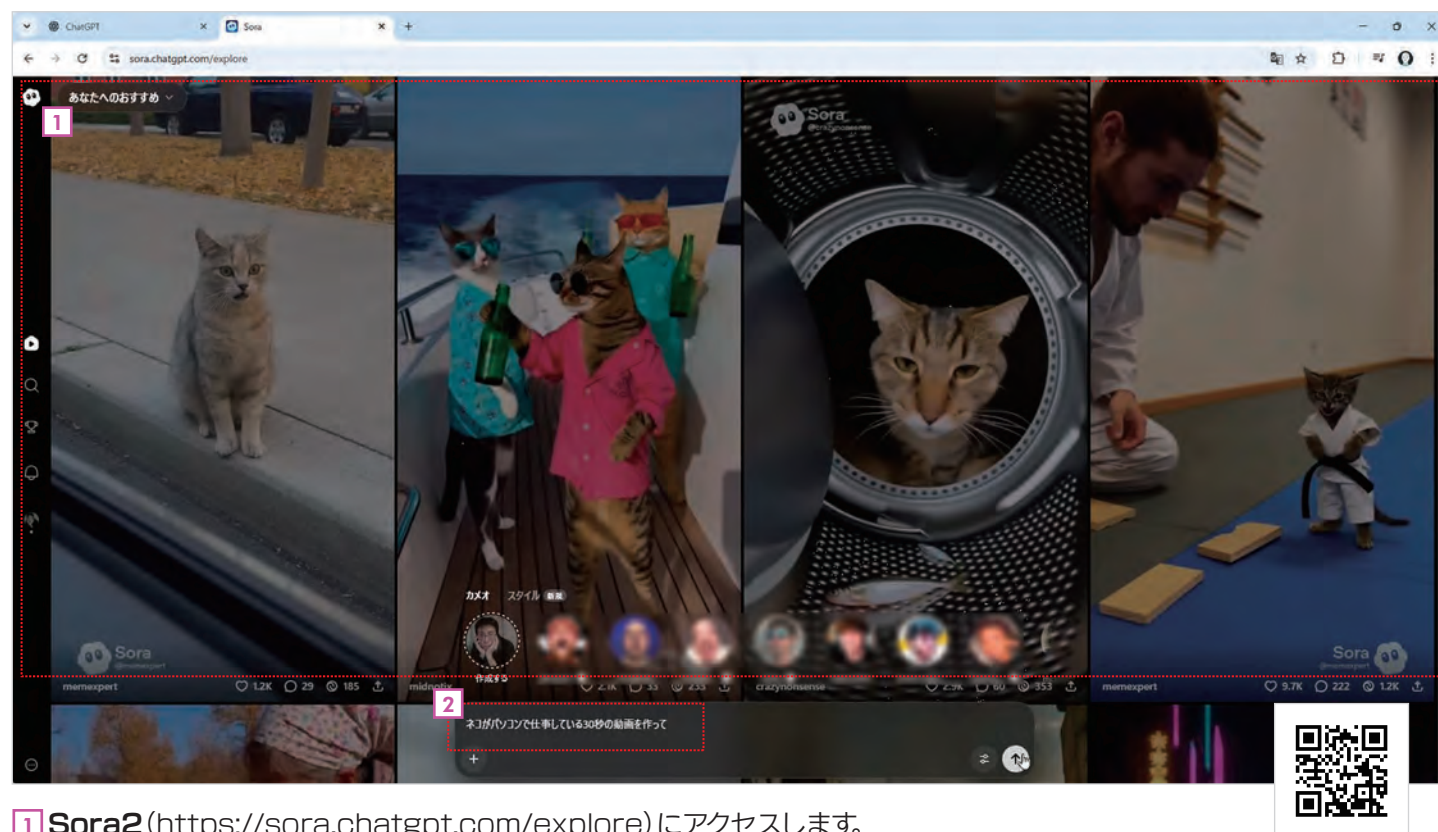
✦ インフルエンザの代表的な症状を表した1枚のイラストを作ってください。イラストには日本語で説明文も入れてください



1-3 動画を作る

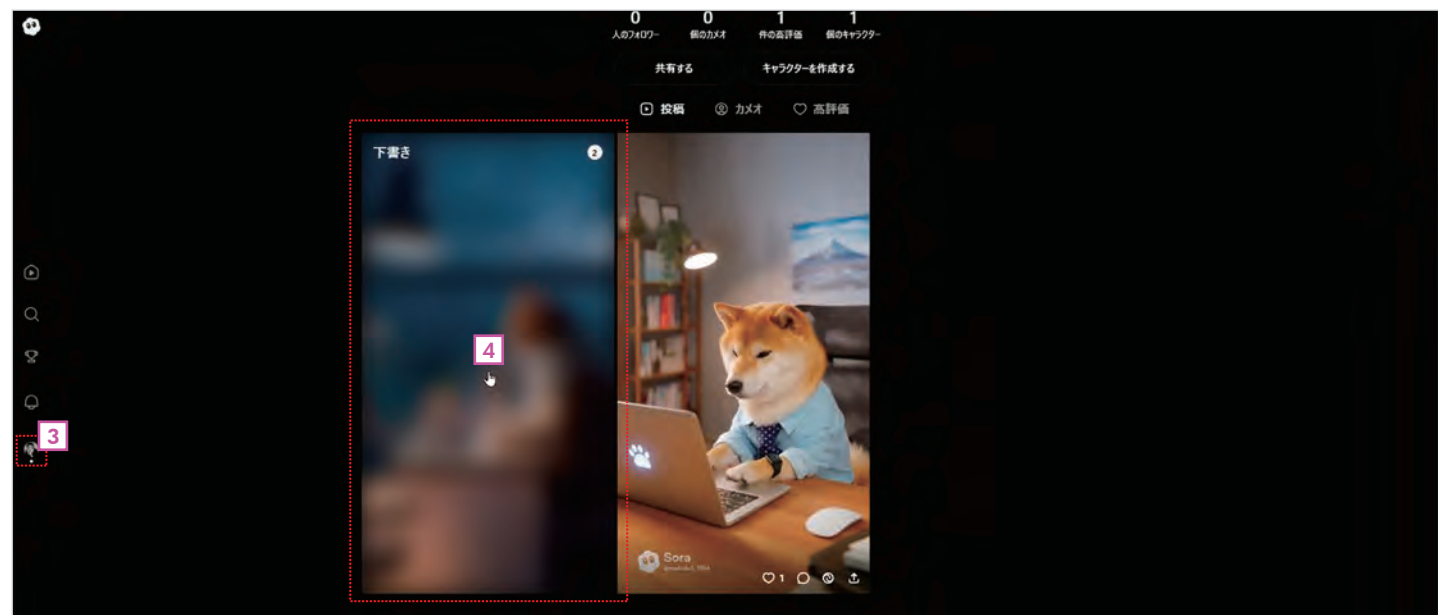
原稿執筆時点では、ChatGPTにはテキストから動画を生成する機能は用意されていません。動画を作るには、「Sora2(ソラ2)」というツールを使います。ここでは、Sora2を使って動画を作る例をいくつか紹介します。

手順 テキストから動画を作る



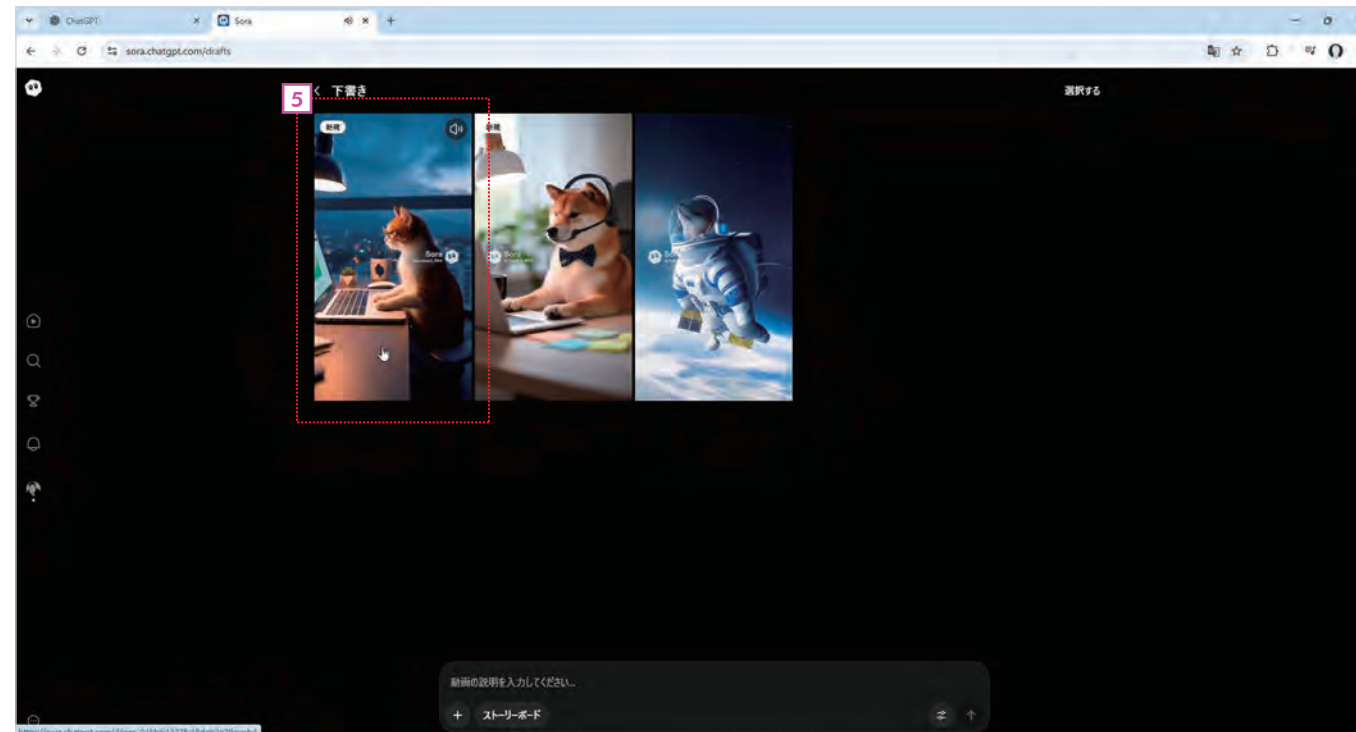
1 Sora2 (<https://sora.chatgpt.com/explore>) にアクセスします。

2 作りたい動画を文章で入力します。ここでは「ネコがパソコンで仕事している30秒の動画を作って」と入力・送信します。

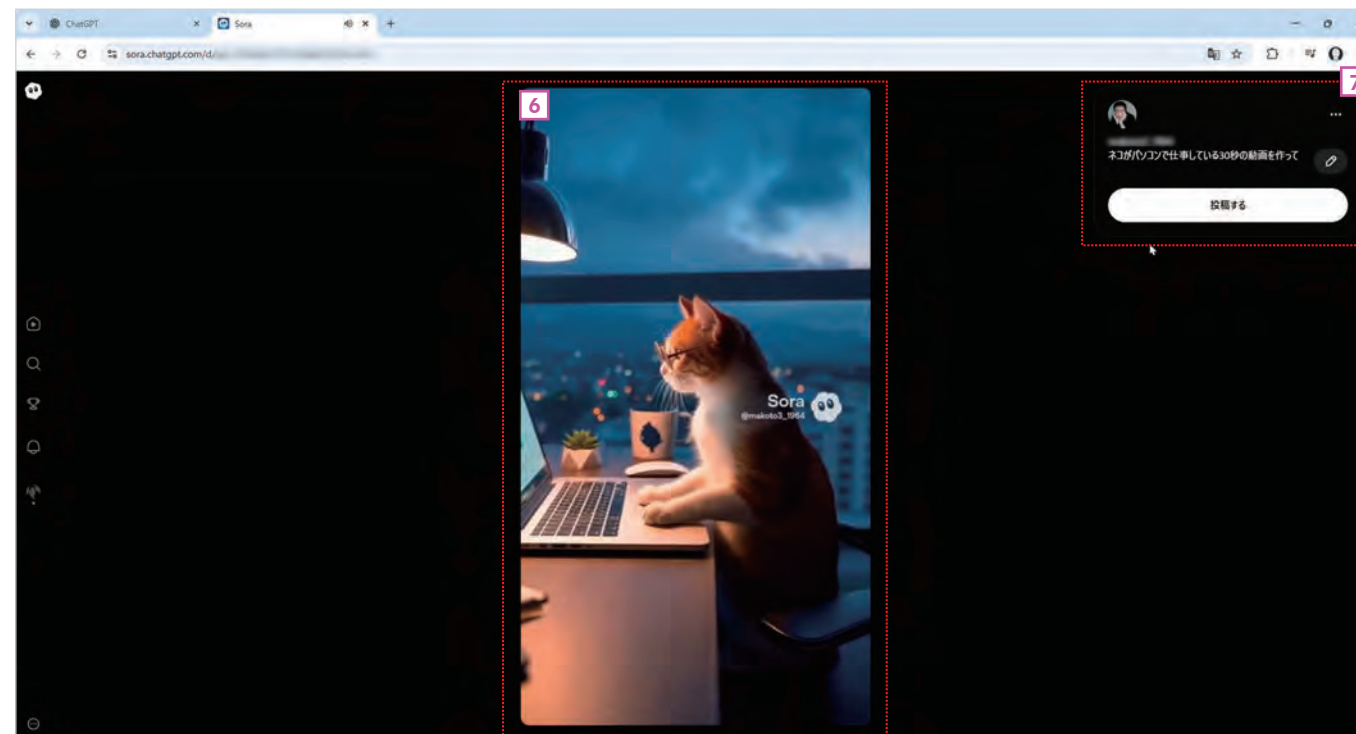


3 動画の生成がスタートします（作成には数分かかります。完了したら通知されます）。なお、動画は自分のアカウントページの「下書き」フォルダに保存されます。確認するには、アカウントのボタンをクリックします。

4 【下書き】をクリックします。



5 生成した動画が表示されるので、クリックします。



6 動画が再生されます。

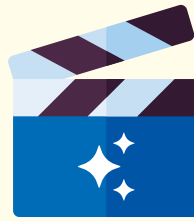
7 右上の【投稿する】をクリックするとSora2のサイトに投稿され、鉛筆のアイコンをクリックするとプロンプトを編集できます。また、[...]をクリックしてメニューから【ダウンロードする】をクリックするとダウンロードできます。



HINT

Sora2 Proとは

無料版のChatGPTでも**Sora2**は利用できますが、作成できる回数が少ないなどの制限があります。すべての機能を利用するには、上位バージョンの**Sora2 Pro**を利用する必要がありますが、**Sora2 Pro**を利用できるのは、ChatGPT Pro(200USD/月)のユーザーとなっています。なお、**Sora2**は開発途中のツールであり、利用制限や利用条件はつねに変更されています。



HINT

カメオ機能とは

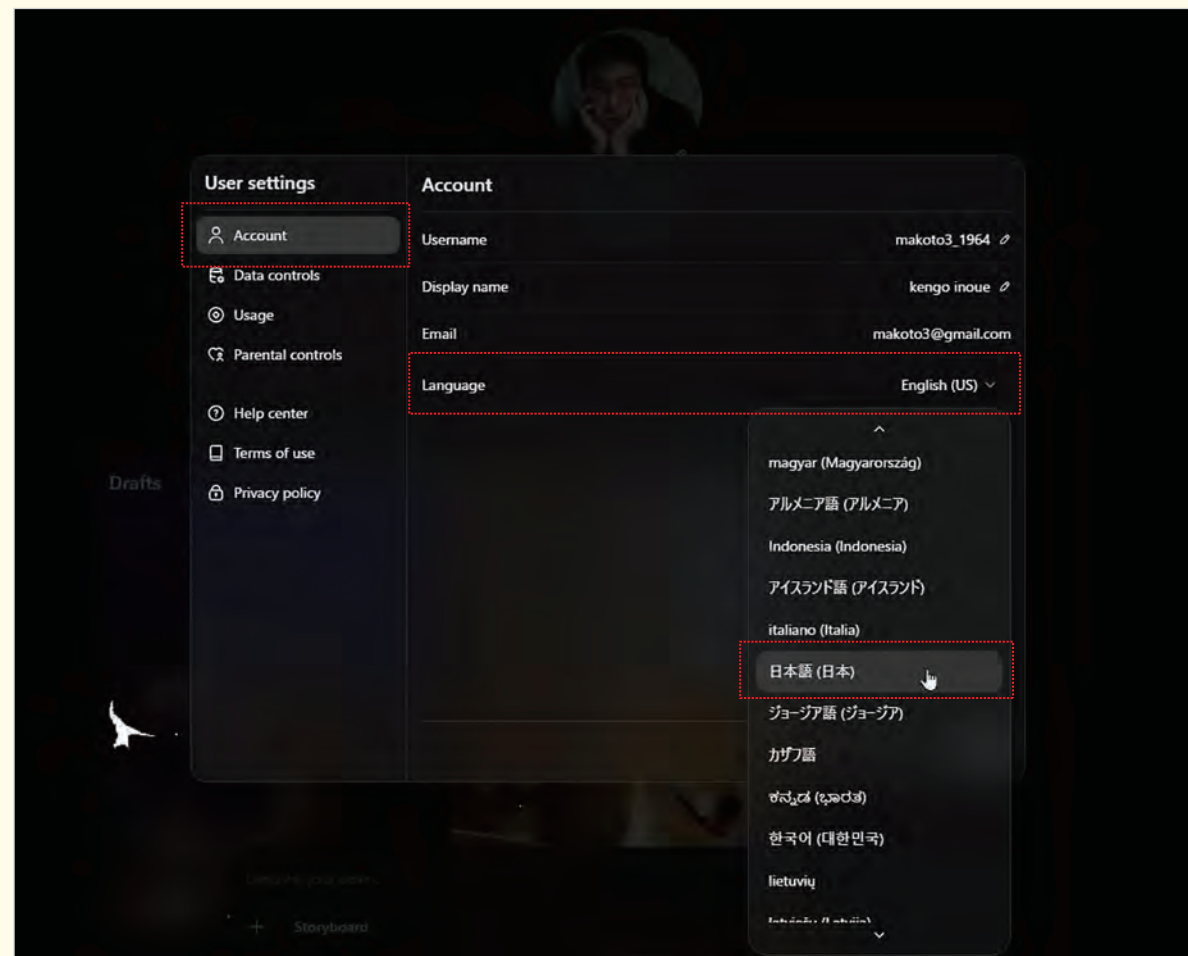
カメオ機能とは、自分の顔や声、ペット、オリジナルキャラクターなどを登録して、動画中のAIアバターとして利用できる機能です。たとえば、自分の顔と声を登録すると、自分自身を動画中に登場させて、動かしたりしゃべらせたりできます。



HINT

Sora2を日本語にする

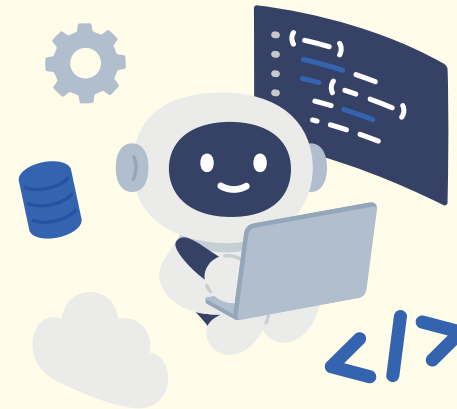
Sora2の画面が英語表示になっている場合は、左下の[...]をクリックしてメニューの[Settings]を選択してください。設定画面の8[Account]を選択し、[Language]で「日本語」を選択すればユーザーインターフェイスが日本語に切り替わります。



HINT

ストーリーボード機能

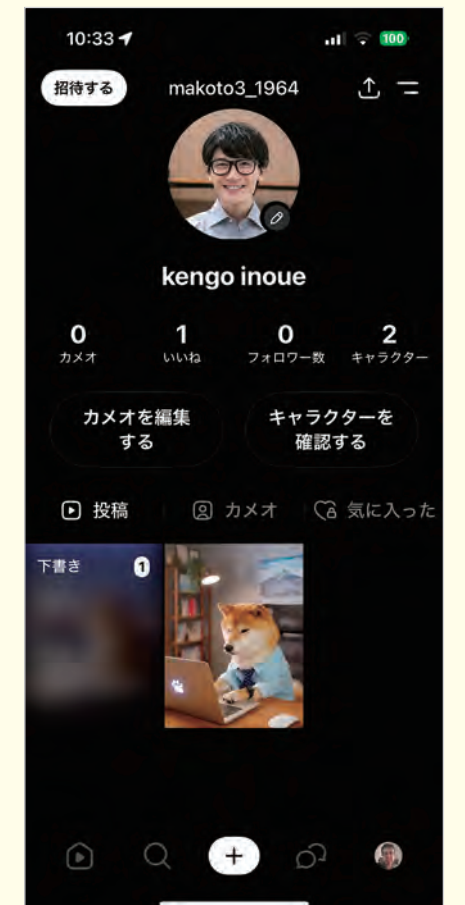
ストーリーボード機能は、動画を複数のシーンに分けて編集できるツールです。シーンごとに登場人物の動きや背景などを細かく設定できます。なお、プランによっては**ストーリーボード**を利用できない場合があります。



HINT

スマホアプリを利用する

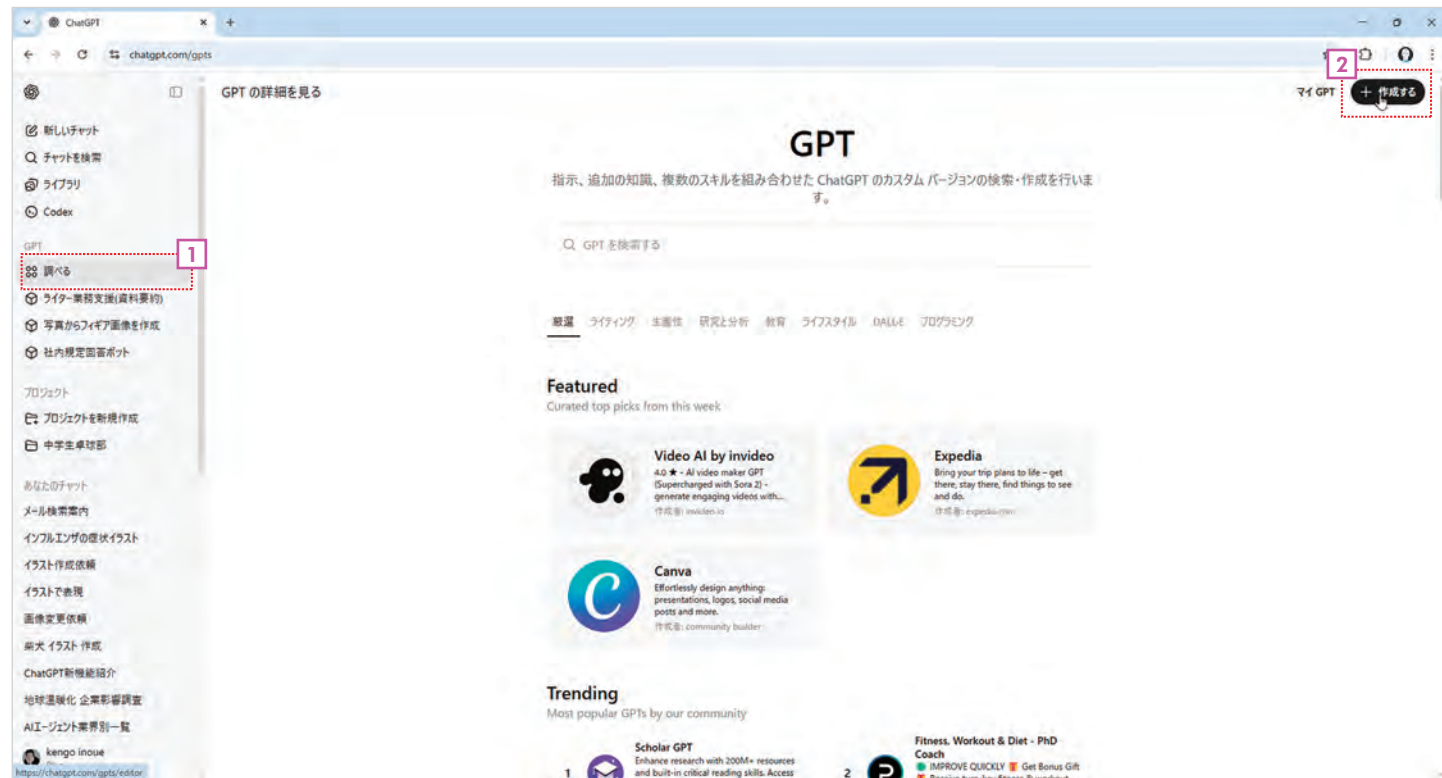
Soraにはスマートフォン用のアプリも用意されています。スマホのカメラですぐに撮影できるので、カメオ機能などの一部の機能は**スマホアプリ**のほうが使いやすいかもしれません。



1-4 オリジナルのチャットボット(カスタムGPT)を作る

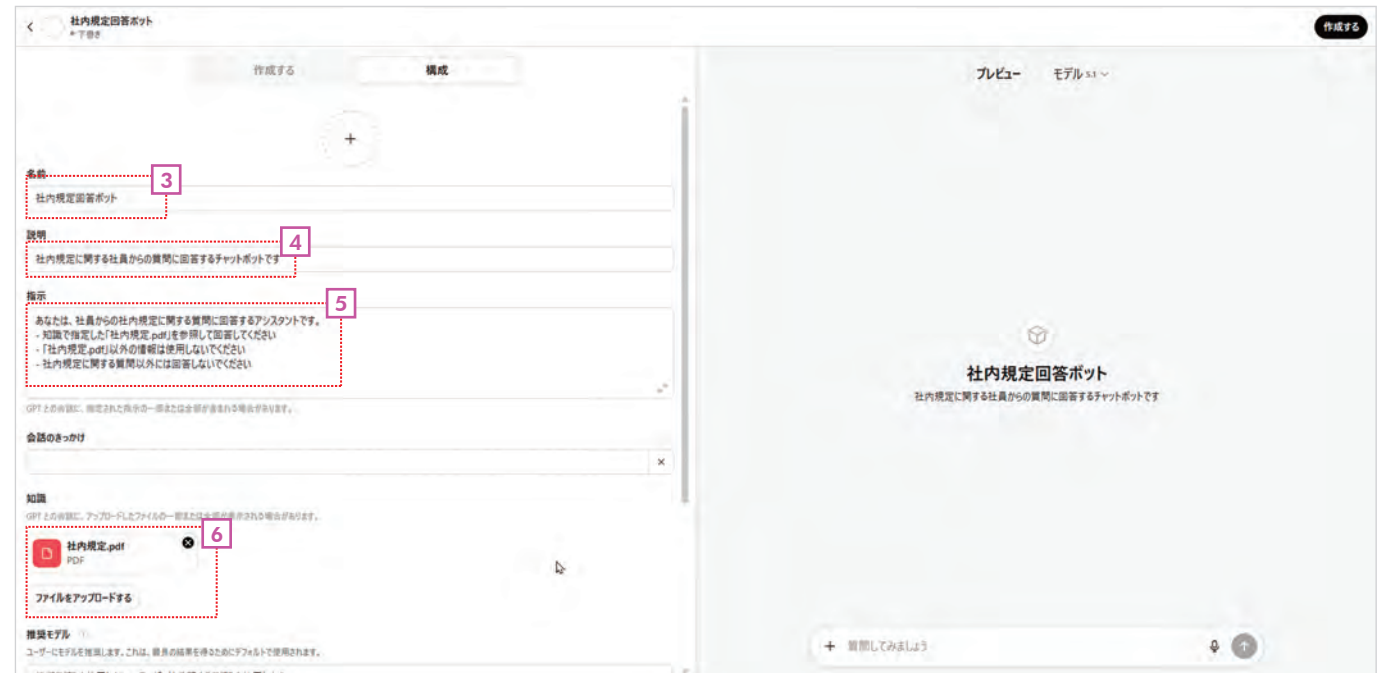
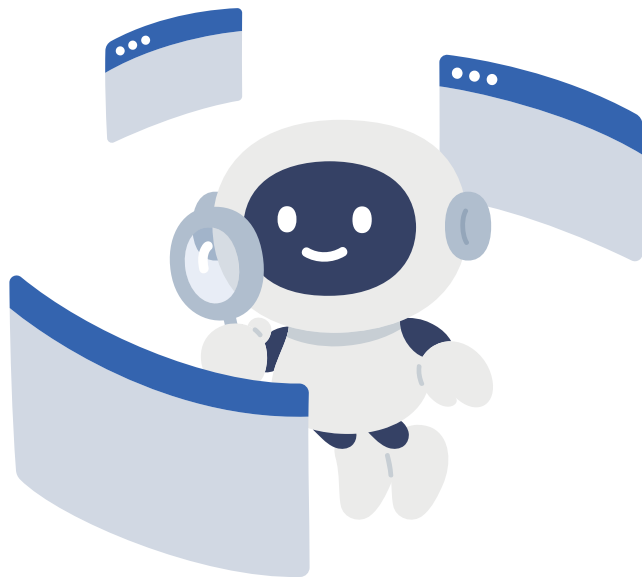
ChatGPTでは、あらかじめ決まったプロンプトを登録したオリジナルのチャットボット(カスタムGPT)を作ることができます。繰り返し利用したいプロンプトがある場合は、カスタムGPTとして登録しておくと便利です。また、参照用のファイルを登録することもできるので、社内規定や製品について回答するチャットボットを作ることにも可能です。ここでは、社内規定のPDFファイルを登録して、社員からの社内規定に関する問い合わせに回答するチャットボットを作る例を紹介します。

手順 カスタムGPTを作る



1 サイドバーの[GPT]で⌵[調べる]を選択します。

2 [作成する]をクリックします。



3 [名前]にカスタムGPTの名前を入力します。ここでは「社内規定回答ボット」と入力します。

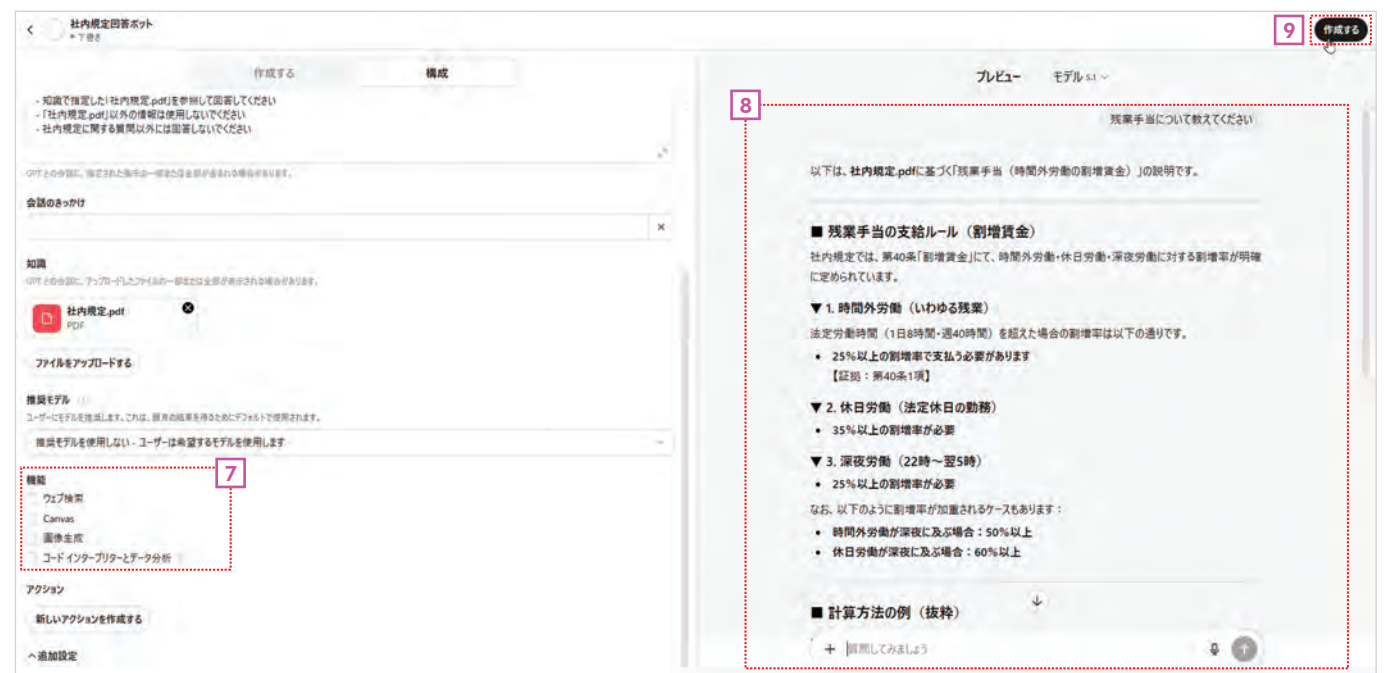
4 [説明]にカスタムGPTの説明を入力します(省略可)。

5 [指示]にプロンプトを入力します。ここでは、次のようなプロンプトを入力します。

あなたは、社員からの社内規定に関する質問に回答するアシスタントです。

- 知識で指定した「社内規定.pdf」を参照して回答してください
- 「社内規定.pdf」以外の情報は使用しないでください
- 社内規定に関する質問以外には回答しないでください

6 [ファイルをアップロードする]をクリックして社内規定のファイル(PDFファイル)を指定します。



7 [機能]の項目はすべてチェックを外します。

8 右側のプレビューで実際の動作を確認できます。

9 [作成する]をクリックします。

1-5 ChatGPTのエージェントモードで複数の処理をまとめて自律的に実行する

「エージェントモード」は、ChatGPTを単なる対話ツールではなく、自律的に動く「AIエージェント」として利用する機能です。通常のチャットと異なり、ユーザーの指示をもとに調査、情報整理、通知、外部ツールとの連携などを実行できます。ここでは、生成AI関連の海外の最新ニュースを収集して、日本語で要約する使い方を紹介します。

手順 海外の生成AIの最新ニュースを収集・要約する



10 [リンクを受け取った人]を指定します。

11 [保存する]をクリックします。



12 カスタムGPTへのリンクが表示されるので、コピーして社員と共有します。

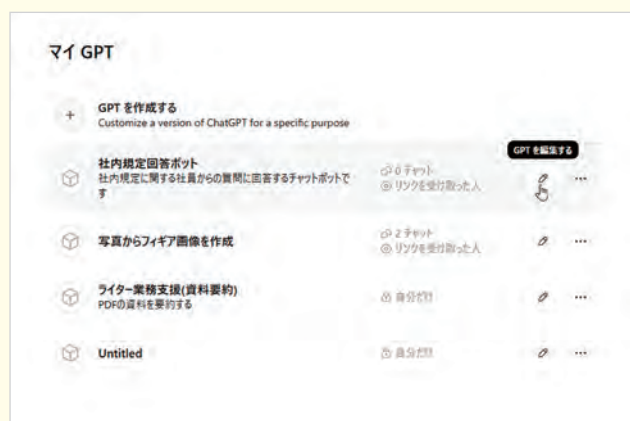


13 リンクを共有したユーザーは、作成された**カスタムGPT**を利用できます。



カスタムGPTの管理

作成した**カスタムGPT**は[GPT]の[調べる]を選択し、[マイGPT]をクリックすると表示されます。作成した**カスタムGPT**が一覧表示され、内容を編集したり削除したりできます。



お手伝いできることはありますか？



3 次のようなプロンプトを入力・送信します。

生成AIに関する海外の主要ニュースを集めて日本語で要約してください。情報源とサイトへのリンクも付けてください。



- 4 処理がスタートします。処理中はエージェントが自動的に海外のさまざまなサイトにアクセスして情報を収集している様子が確認できます。



- 5 結果が表示されます。



エージェントモードの利用回数

エージェントモードは、プランによって利用できる回数に制限があります。メニューの[Eージェントモード]にマウスポインタを合わせると、実行できる残りの回数が表示されます。



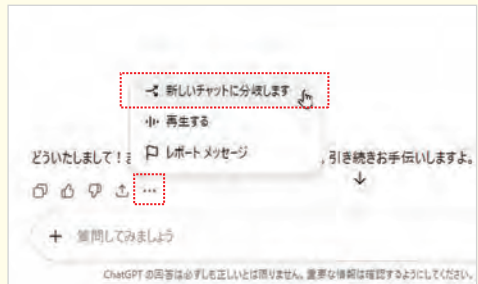
定期的に行う

結果の末尾にある[...]をクリックして[スケジュール]を選択すると、エージェントによる処理を定期的に行うことができます。



チャットの分岐

ChatGPTの回答で[新しいチャットに分岐します]を選択すると、新しいタブが開いて現在とは別のチャットを開始できます。たとえば、あるテーマについての質問中に一時的に別のテーマを調べたいとき、複数のシナリオを試したいときなどに利用してください。



OpenAIのAIブラウザ「ChatGPT Atlas」

OpenAIは、AIが統合された独自のWebブラウザ「ChatGPT Atlas(アトラス)」を公開しています。これにより、ユーザーが閲覧しているページをリアルタイムに理解・分析・比較することが可能になります。たとえば、「この商品を比較して」「ページを翻訳して」といった指示をして、すぐに結果を得ることができます。

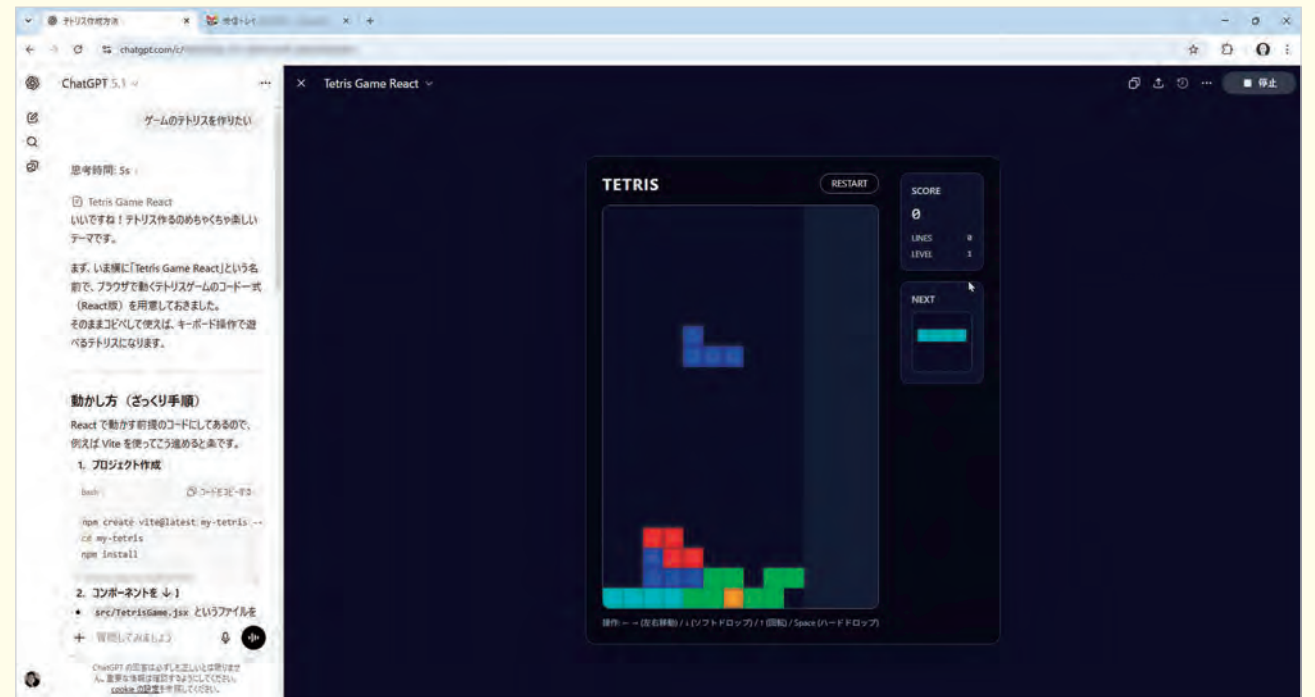


OpenAIが公開しているAIブラウザ「ChatGPT Atlas」(画面はMac版)



Canvas機能とは?

ChatGPTの「Canvas(キャンバス)」とは、AIと対話しながら文書やプログラムを作成・編集する機能です。専用の編集画面に文章やコードが表示され、それを直接修正したり、AIに指示を出して修正したりできます。



Canvas機能でゲームを作成しているところです。



「あらゆる学びをサポート」とは？

ChatGPTの「あらゆる学びをサポート」とは、ユーザーが特定のテーマについて深く理解し、自ら考える力を養うことを目的とした対話型の学習支援機能です。通常の対話のように質問に即座に答えるのではなく、ユーザーが求めるレベル(中学レベル、大学レベルなど)に合わせて、家庭教師のようにユーザーの学習プロセスをサポートしてくれます。

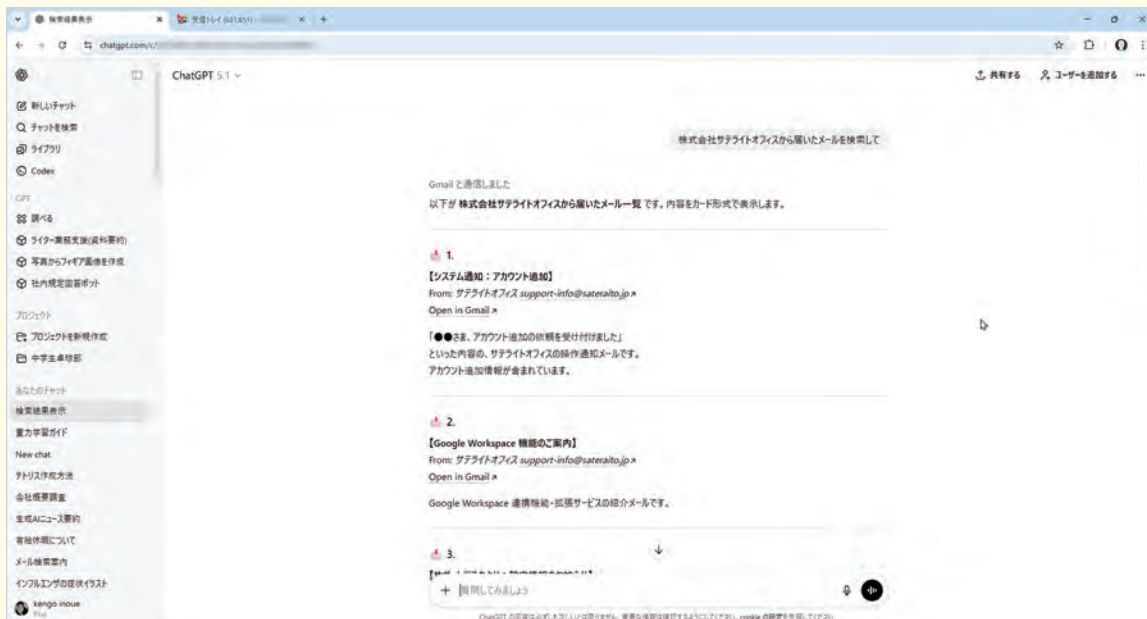


「情報源を追加する」の使い方

ChatGPTのメニューで **情報源を追加する** を選択すると、ChatGPTで検索できる情報を追加できるようになります。たとえば**[Gmail]**を選択すればGmailが検索可能になり、メールを調べられるようになります。



情報源を追加できるようになります。



情報源としてGmailを追加し、その内容を検索した例です。

第2章

Gemini編

GeminiはGoogleが開発した生成AIです。先行するOpenAIのChatGPTを追いかける形で開発が進められた結果、ChatGPTにもひけを取らない機能、性能を実現するにいたりました。また、GmailやGoogleドキュメントなどのGoogleのアプリケーションと連携できるのも大きな特徴となっています。

2-1 Deep Researchでレポートを作る

ChatGPTと同様に、Geminiにも特定のテーマについてより深く分析するDeep Research機能が用意されています。使い方は似ていますが、アウトプットの形式が多彩といった違いもあります。ここでは、2ページのChatGPTと同じテーマについて、GeminiのDeep Researchで分析する例を紹介します。

手順 Deep Researchで地球温暖化と企業活動の関係を分析する



1 ツールをクリックしてメニューを開きます。

2 [Deep Research]を選択します。



3 次のようなプロンプトを入力・送信します。

地球温暖化が企業活動に及ぼす影響をプラス面、マイナス面に分けて調べてください



4 調査の計画が表示されたら[リサーチを開始]をクリックします。



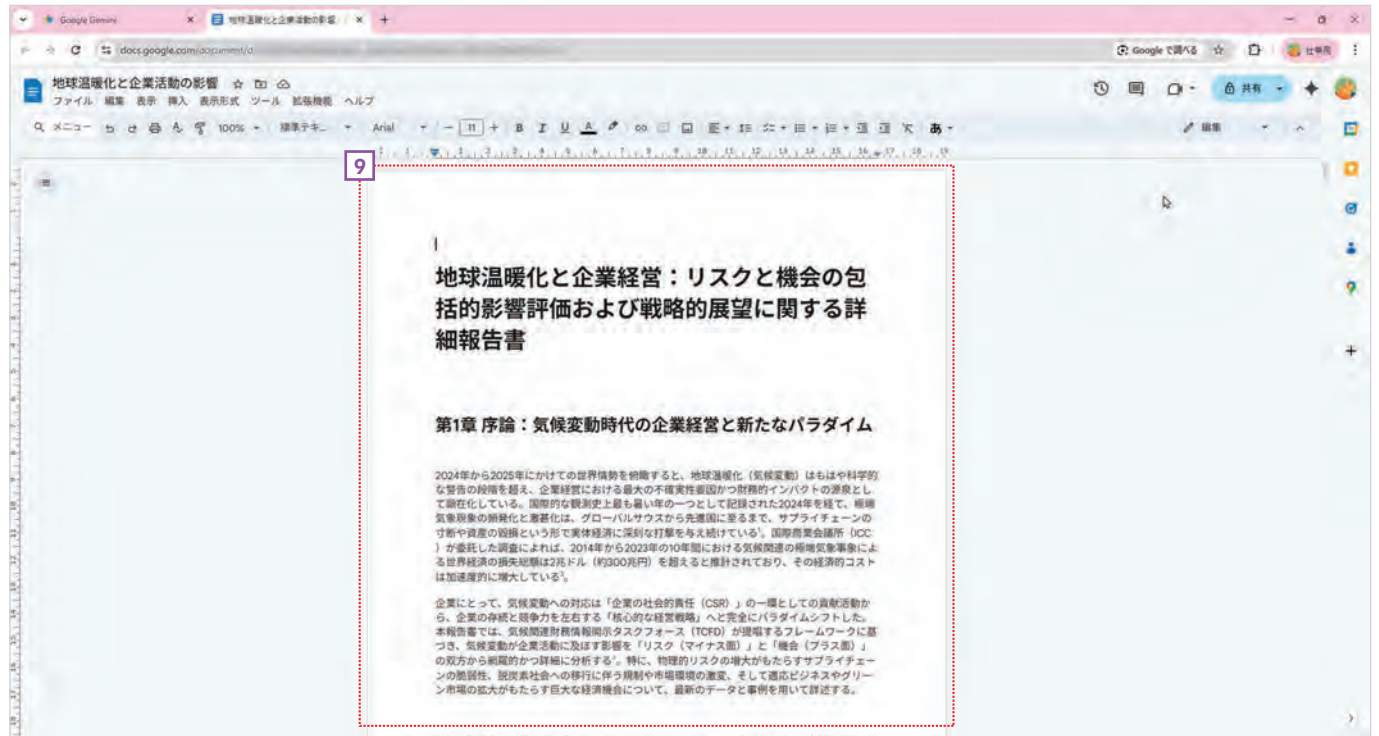
5 調査がスタートします。調査中はAIの思考プロセスや参照されたサイトを表示することもできます。なお、調査には時間がかかるため、いったんチャットを退出してもかまいません。完了したら通知が届きます。



6 調査完了後、レポートが表示されます。

7 [共有とエクスポート]をクリックします。

8 [Googleドキュメントにエクスポート]を選択します。



9 レポートがGoogleドキュメントとして表示されます。A4で18ページ、約2万文字の詳細なレポートです。



レポートから作成できる多彩なコンテンツ

GeminiのDeep Researchの特徴は、調査結果からさまざまな形式のコンテンツを作成できることです。【作成】をクリックして作りたいコンテンツを選択するだけです。



【作成】をクリックして作りたいコンテンツを選択します。

	ウェブページ	調査結果をもとにウェブページを作成します。
	インフォグラフィック	重要なデータや情報を図やグラフ、イラストを用いて分かりやすくまとめた視覚的なコンテンツを作成します。
	クイズ	レポートから重要な知識を抽出し、それに関するクイズを作れます。内容の確認や学習用に利用できます。
	フラッシュカード	レポート内の主要な用語や概念を整理した表と裏に分かれたカードを作成します。暗記や復習に利用できます。
	音声概要	レポートの概要を解説する音声を作成します。男女の対話形式でレポートの内容が説明されます。

2-2 画像を作る

Geminiはテキストから画像を作ることができます。また、既存の画像をもとに新しい画像を作ることができます。ここでは、7ページのChatGPTと同じプロンプトを利用して画像を作ってみます。2つの生成AIの違いも確認してみてください。

手順 画像を作る



1 🛠️【ツール】をクリックしてメニューを開きます。

2 🖼️【画像を作成】を選択します。



Nano Banana(ナノバナナ)とは？

Nano Bananaは、Geminiの画像生成で利用されているモデルのコードネームのことです。現在は、Geminiの画像生成・編集機能の通称として使われています。



3 以下のプロンプトを入力・送信します。

🌟 オフィスでPCを開いて仕事をしている柴犬のイラストを作ってください



4 画像が生成されます。

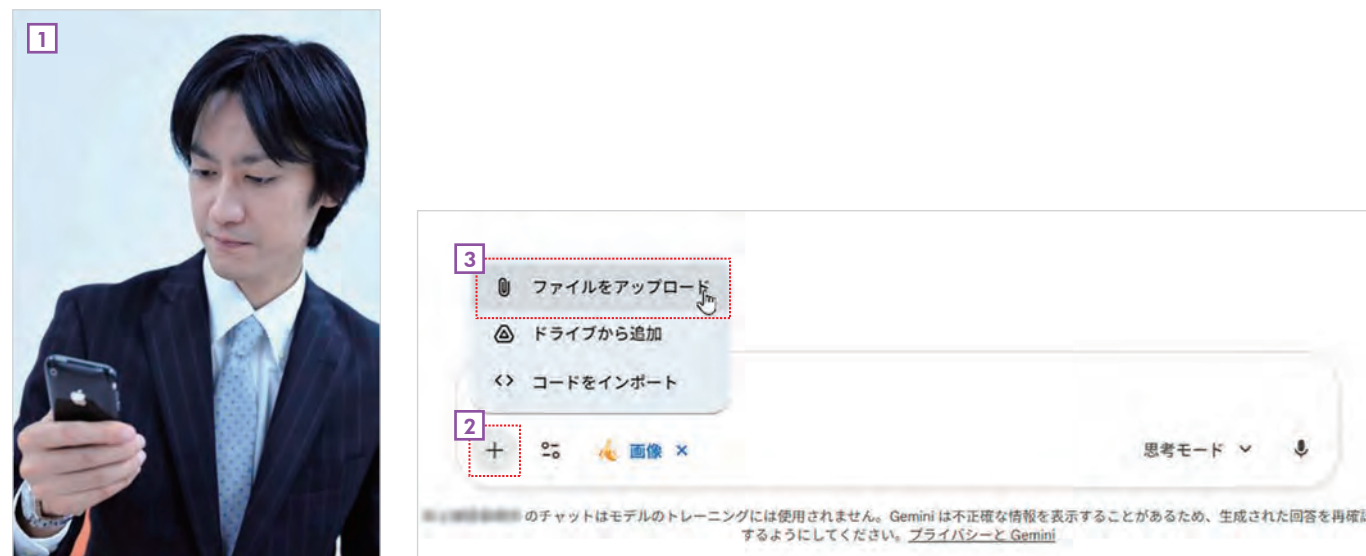
5 続けて、以下のプロンプトを入力・送信します。

💡 もっとラフな服装をしたITベンチャーっぽい雰囲気、メガネをかけたかわいい柴犬にしてください



6 画像が生成されます。このように、対話しながら目的の画像を作成することができます。

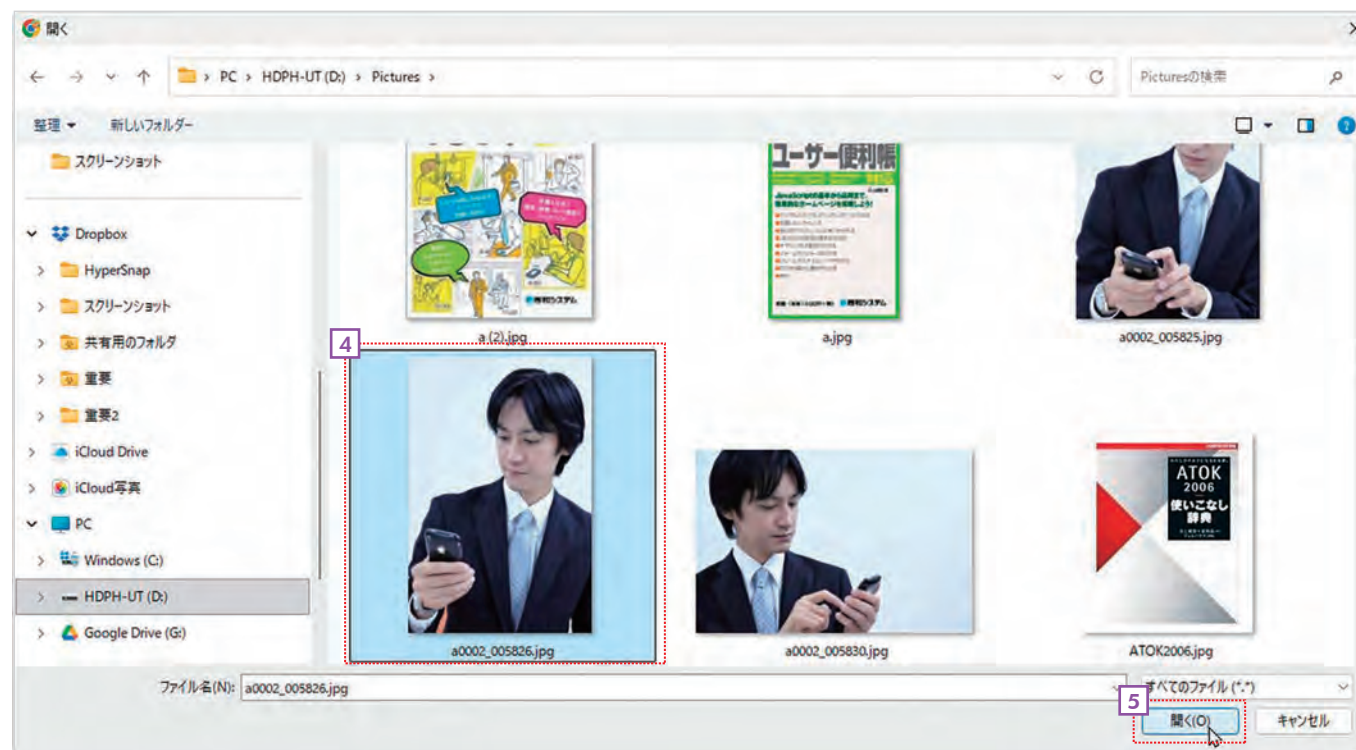
手順 画像をアップロードして加工する



1 この画像をアップロードして加工してみます。

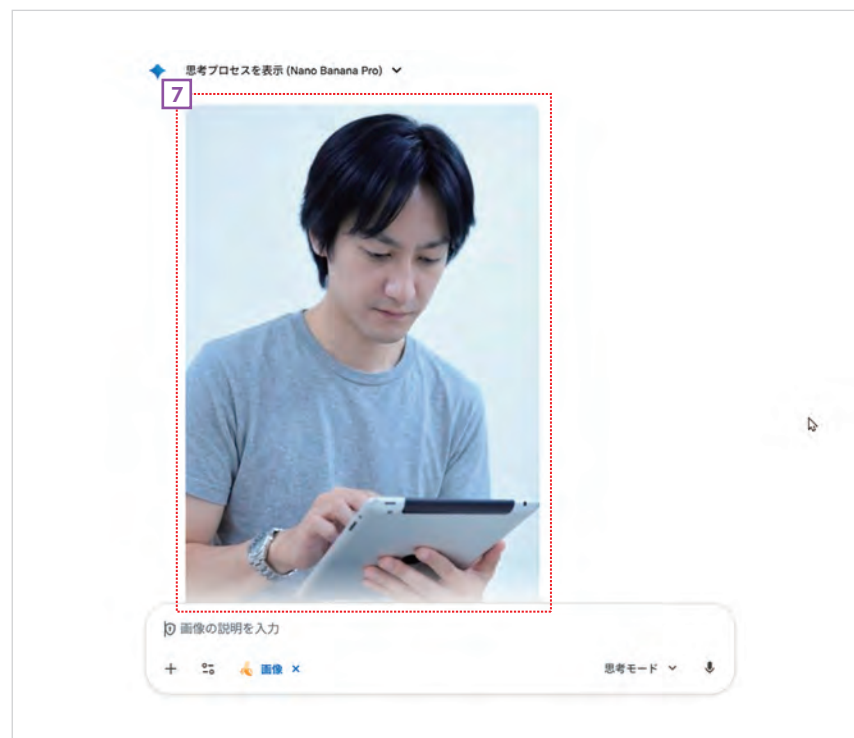
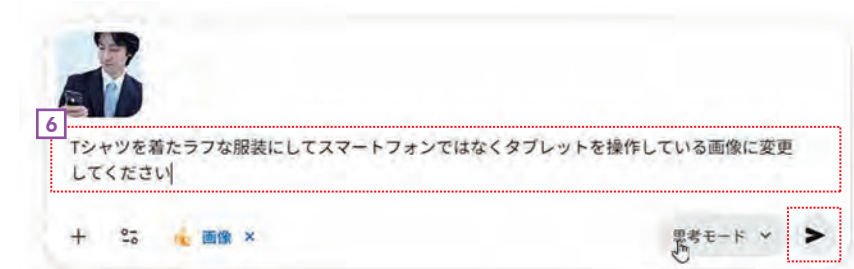
2 [+]をクリックしてメニューを開きます。

3 ① [ファイルを上ロード]を選択します。



4 画像ファイルを指定します。

5 【開く】をクリックします。



6 画像ファイルが設定されたら、次のようなプロンプトを入力・送信します。

✦ Tシャツを着たラフな服装にしてスマートフォンではなくタブレットを操作している画像に変更してください

7 画像が編集されます。このように、テキストで指示することで画像を自由に加工することができます。



テキストから説明用の図を作る

Geminiを使うと、テキストから説明用の図を作ることができます。たとえば、次はインフルエンザの代表的な症状を表現した図です。



これは、次のプロンプトで作りました。

✦ インフルエンザの代表的な症状を表した1枚のイラストを作ってください。イラストには日本語で説明文も入れてください

2-3 動画を作る

Geminiには、テキストや画像から動画を作成する機能が用意されています。利用されるのは「Veo(ヴィオ)」というGoogleが開発したAI動画生成モデルです。動画を説明するテキストを入力するだけで、高品質な映像と音声を同時に生成できます。ここでは、いくつかの例を紹介します。

手順 テキストから動画を作る



1 新しいチャット画面で ツール をクリックします。

2 動画を作成 (Veo3.1) を選択します。



3 動画の説明を入力します。ここでは、次のような文章を入力・送信します。

✦ 赤ちゃんが自動車レースに出場して、トップで優勝する。背景ではスピード感のあるBGMが流れている



4 動画が作成されます。なお、作成には数分かかる場合があります。

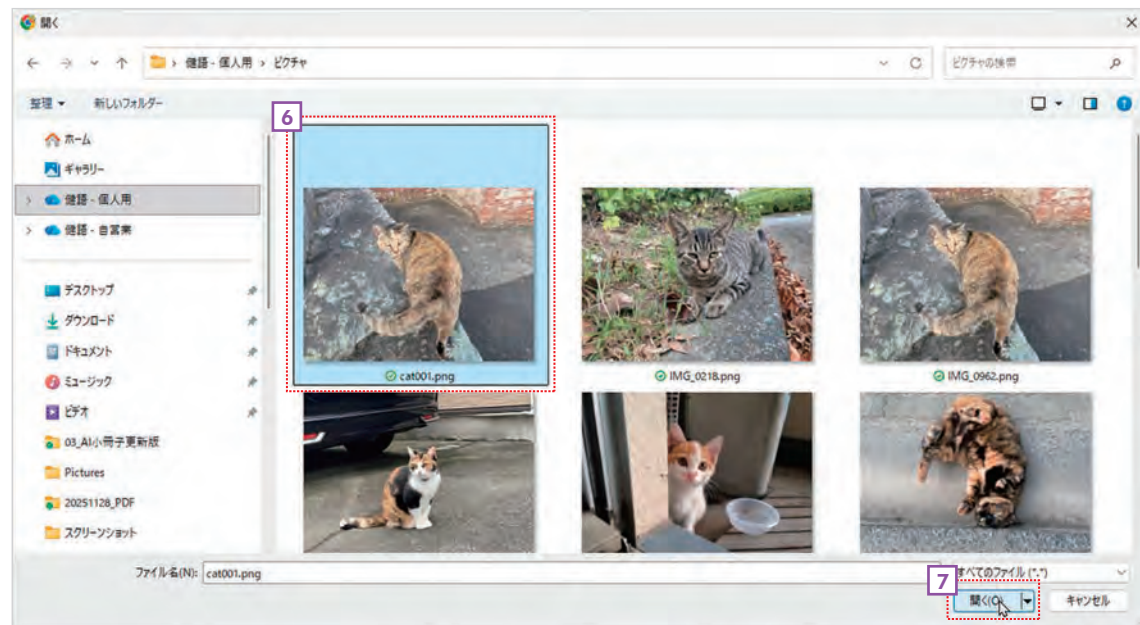
手順 画像をもとに動画を作る



- 1 この画像をもとに動画を作ってみます。
- 2 チャット画面で [ツール] をクリックします。
- 3 [動画を作成 (Veo 3.1)] を選択します。



- 4 [+] をクリックします。
- 5 [ファイルをアップロード] を選択します。



- 6 画像ファイルを選択します。
- 7 [開く] をクリックします。



- 8 画像ファイルが設定されます。
- 9 この画像をもとに、どのような**動画**を作りたいかを文章で指定します。ここでは、次のような文章を入力・送信します。

この画像をもとに、ネコがゆっくりと奥へ歩いて行って、最後に振り返って大きな欠伸をする動画を作ってください。BGMはお任せします



- 10 動画が生成されます。クリックすると再生できます。



Veo3の制限

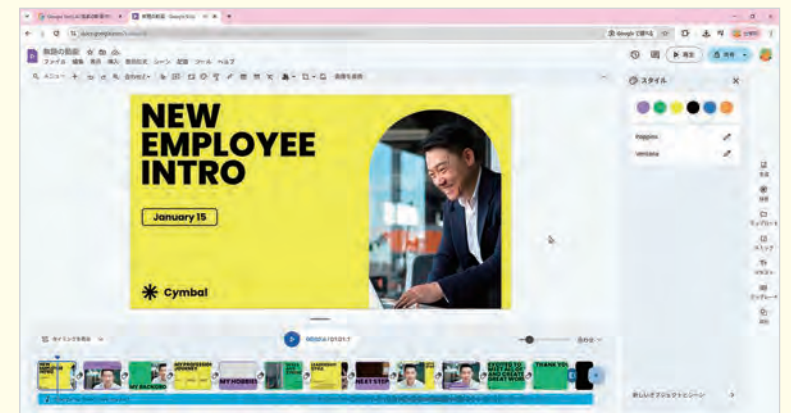
Veo3で作成できる動画数には上限が設けられています。プランによる違いは次のとおりです。なお、本数はあくまで目安です。

Google AI Pro:	3本程度/日	制限あり
Google AI Ultra:	5本程度	125本/月



動画作成アプリGoogle Vidsとの統合

有料のGoogle Workspaceに含まれている動画作成アプリの「Google Vids」にはVeoが統合されており、Google Vids内の機能として利用できます。



2-4 カスタムのチャットボットを作る(Gemの作成)

GeminiのGem(ジェム)は、特定のプロンプトやファイルを登録してオリジナルのチャットボットを作る機能です。繰り返し実行するプロンプトを登録して業務を効率化したり、社内規定や製品マニュアルなどのファイルを登録して社内規定や製品の問い合わせに回答したりするチャットボットを作成できます。ここでは、社内規定のPDFファイルを登録して、社員からの問い合わせに回答するチャットボットを作る例を紹介します。

手順 カスタムのチャットボット(Gem)を作成する



1 メニューの【Gem】を選択してGemマネージャーを表示します。

2 【Gemを作成】をクリックします。



3 【名前】にGemの名前を入力します。ここでは「社内規定回答ボット」と入力します。

4 【説明】にGemの説明を入力します。

5 【知識】の【+】をクリックして社内規定のPDFファイルを指定します。



6 【カスタム指示】に次のようなプロンプトを入力します。

あなたは、社員からの社内規定に関する質問に回答するアシスタントです。
- 知識で指定した「社内規定.pdf」を参照して回答してください
- 「社内規定.pdf」以外の情報は使用しないでください
- 社内規定に関する質問以外には回答しないでください



7 プレビューで動作を確認します。

8 【保存】をクリックします。これで完成です。



9 社内規定について質問すると、資料をもとに回答してくれます。



プロンプト作成をGeminiに任せる

【カスタム指示】に入力するプロンプトがよく分からない場合は、実行したい内容を自然な日本語で入力したあと、
9 【Geminiを使用して指示を書き換える】をクリックしてください。Geminiが入力された文章をもとに、適切なプロンプトに変換してくれます。



作ったGemの管理

作成したGemはGemマネージャーの【マイGem】に表示されます。右側にある【共有】をクリックするとリンクが発行され、作ったGemを他のユーザーと共有できます。また、【編集】をクリックすると、登録したプロンプトやファイル、タイトルなどを編集できます。



あらかじめ用意されているGemを活用する

Gemマネージャーには、あらかじめGoogleによって作成されたGemも用意されています。利用したいGemがある場合は、使ってみてください。たとえば、Storybookを利用すれば、簡単なストーリーを入力するだけで、子供や大人向けの絵本を作ることができます。



Canvas機能とは？

GeminiのCanvas(キャンバス)機能とは、AIと対話しながら文書やプログラムを作成できる機能です。たとえば、Canvas機能を有効にして「似非科学についてまとめた」「ブロック崩しゲームを作りたい」といった問いかけをするだけで、文書やプログラムが生成され、専用の画面で修正することができます。



Canvas機能を有効にして「似非科学についてまとめた」と入力・送信した例です。文書が作成され、それをもとに編集することができます。

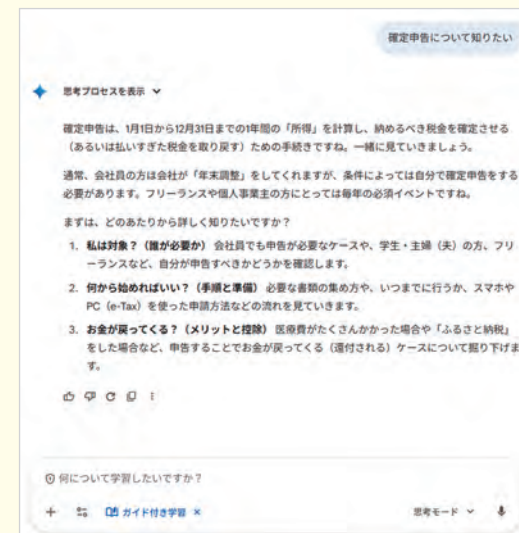
Canvas機能を有効にして「ブロック崩しゲームを作りたい」と入力・送信した例です。コードが生成され、プレビューでプログラムを実行することもできます。コードは直接編集できます。



「ガイド付き学習」とは？

Geminiの「ガイド付き学習」とは、たんに答えを提示するのではなく、ユーザーが自力で答えにたどり着けるように、ステップ・バイ・ステップで導いてくれる学習支援機能のことで。メニューで「ガイド付き学習」を選択すれば準備完了です。たとえば「確定申告について知りたい」と入力・送信すると、確定申告について順を追って勉強することができます。

「ガイド付き学習」を有効にして「確定申告について知りたい」と入力・送信した例です。



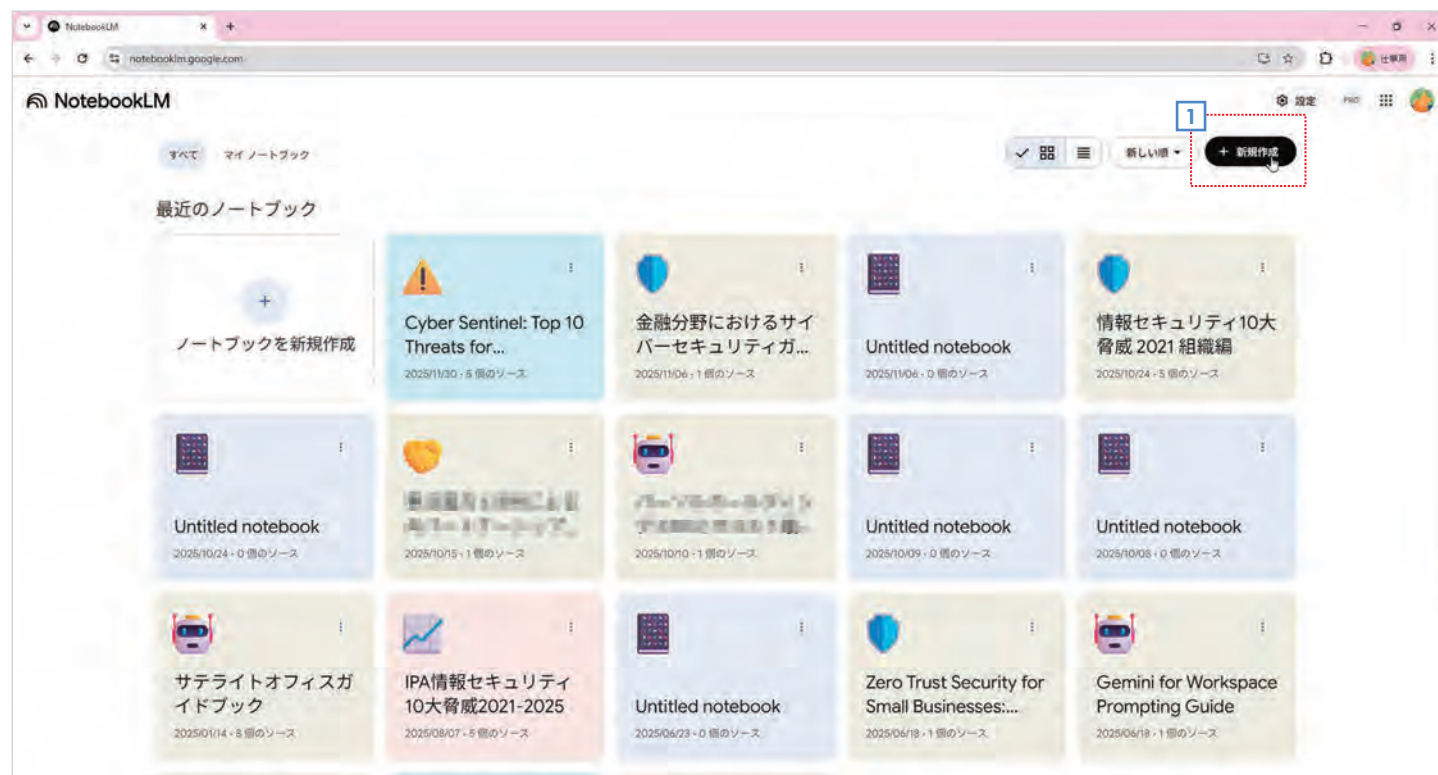
NotebookLM編

NotebookLM(ノートブックエルエム)は、PDFやテキストファイル、Googleファイル、音声ファイル、ウェブサイトやYouTube動画のURLなどをソースとして登録することで、そのソースについて回答するチャットボットを作ったり、スライド等の新たなコンテンツを生成したりできるGoogleのツールです。仕事に必要な資料をまとめて登録しておくことで、その資料から素早く情報を引き出したり、新しいコンテンツを作ったりできます。ここでは、NotebookLMの基本的な使い方を紹介します。

3-1 ソースを登録して自分だけのチャットボットを作る

NotebookLMを利用するには、新しい「ノート」を作って、そこにソースを登録します。ここでは、新しいノートを作ってチャットで情報を引き出す例を紹介します。

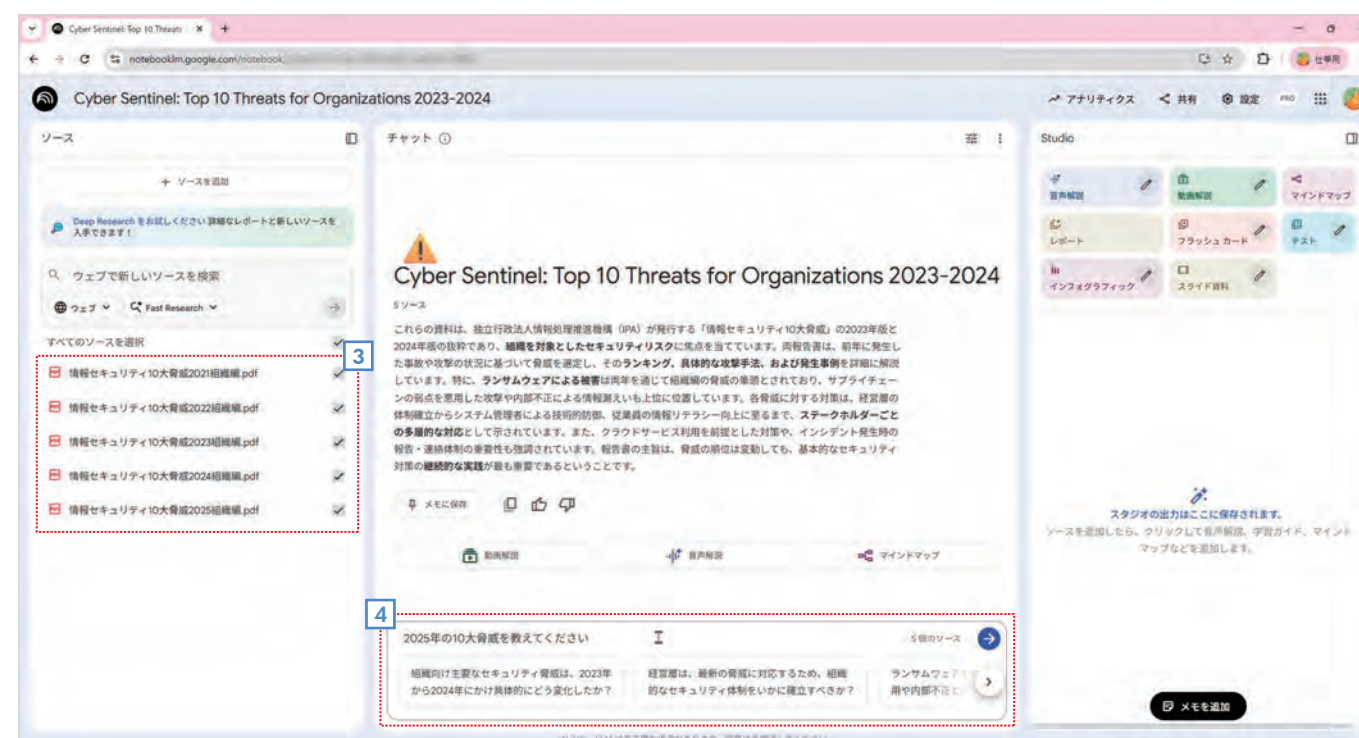
手順 新しいノートを作成して問い合わせる



1 NotebookLMを表示したら[新規作成]をクリックします。

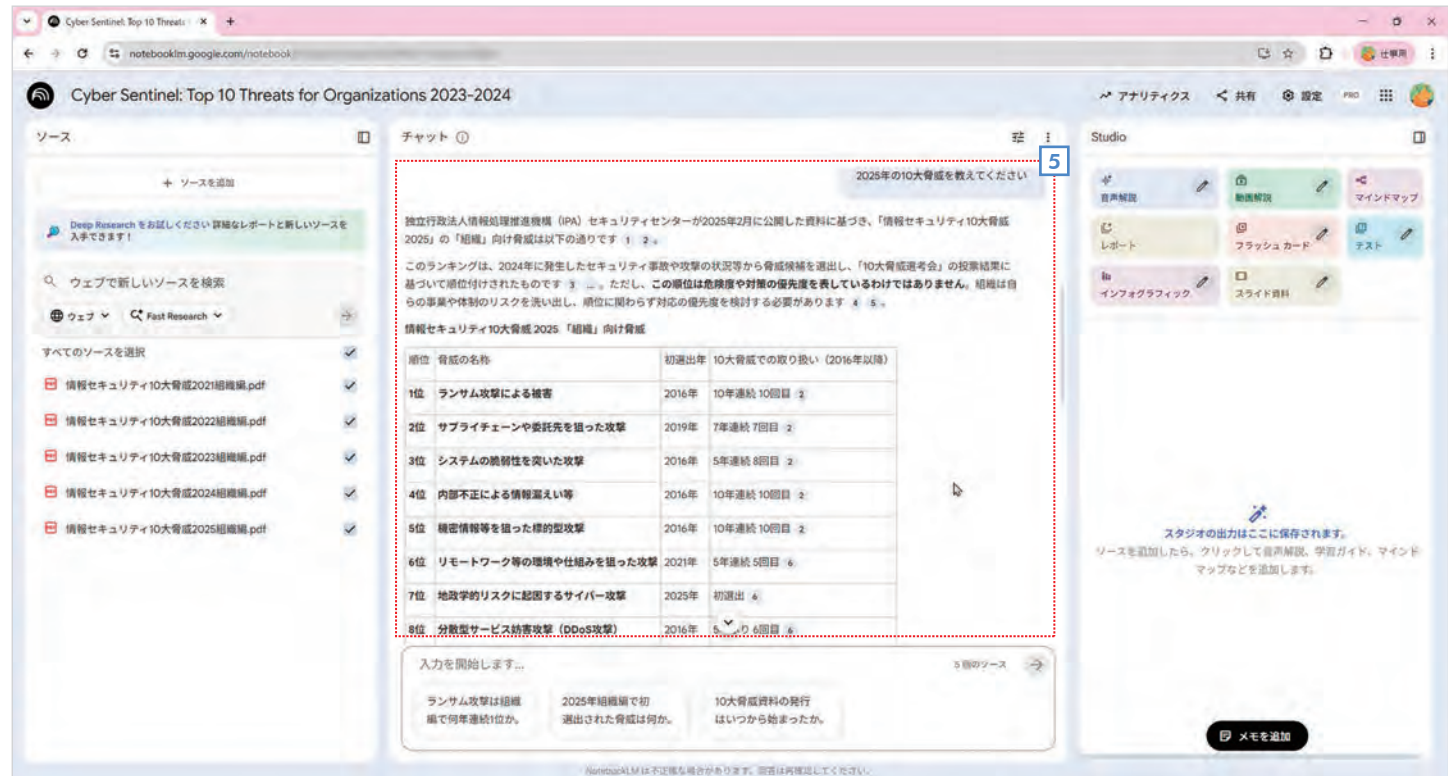


2 ソースを登録する画面が表示されるので登録します。ファイルの場合はエクスプローラやファイnderからファイルをドラッグ&ドロップすれば登録できます。また、Googleドライブ上のファイル、ウェブサイトやYouTubeのURLなども、該当するボタンをクリックすれば登録できます。ここでは、IPA（情報処理推進機構）が毎年公開している「**情報セキュリティ10大脅威 組織編**」の2021～2025年のPDF資料を登録します。



3 ソースが登録されて、チャットボットが利用可能になります。登録したソースは左側に一覧表示されます。

4 チャットボットで質問を入力・送信します。



5 登録したソースにもとづいて回答が表示されます。



登録したソース以外の情報は回答できない

NotebookLMで調べられるのは、登録した情報だけです。登録されていない情報について調べることはできません。



重要な回答はメモとして保存する

NotebookLMのチャットボットには履歴を残す機能はありません。保存しておきたい回答は、[メモに保存]をクリックしてメモとして保存しておきましょう。保存したメモは右側の[Studio]に表示されます。



3-2 ソースをもとに音声や動画、レポートなどの独自コンテンツを作る

NotebookLMのStudioでは、登録されているソースの情報からさまざまなコンテンツを作ることができます。ここでは、作成できるコンテンツについて紹介します。



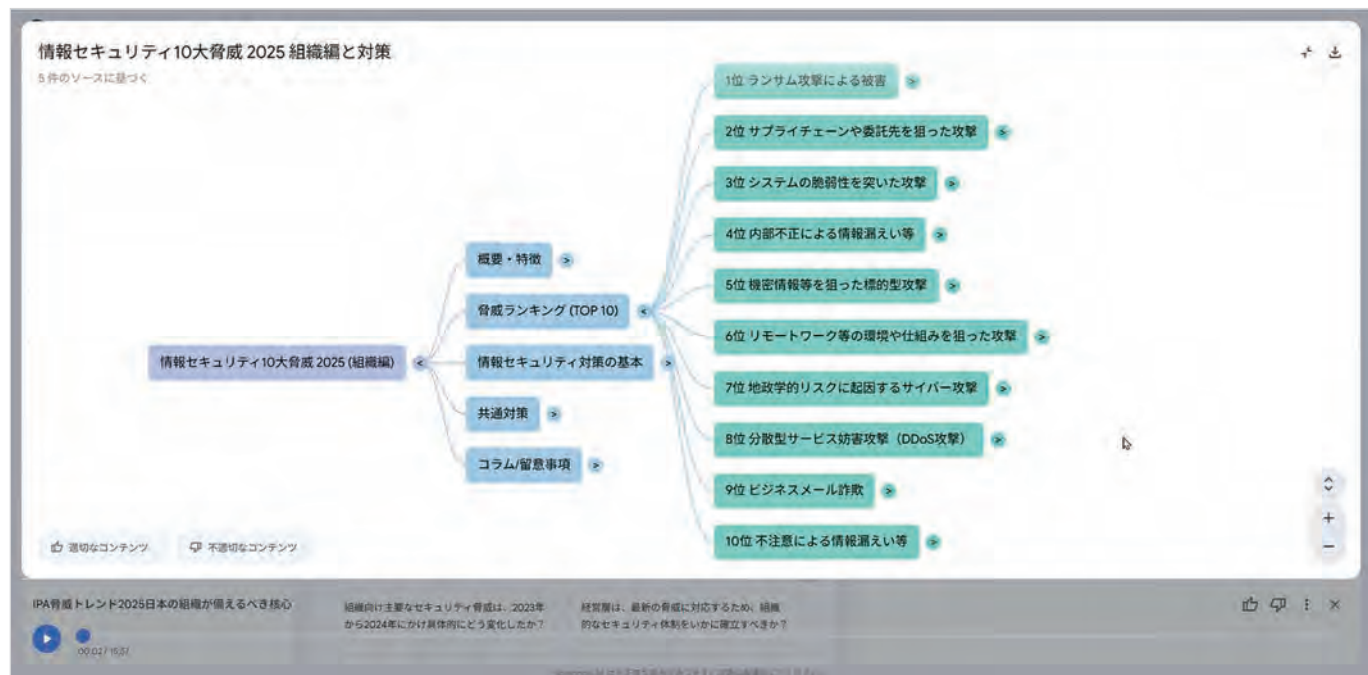
音声解説

ソースの内容について、その概要を解説する音声を作成します。「詳細」「概要」などの形式や長さを指定することも可能です。



動画解説

ソースの内容を解説する動画を作成します。形式(説明動画/概要)、ビジュアルスタイルも設定できます。

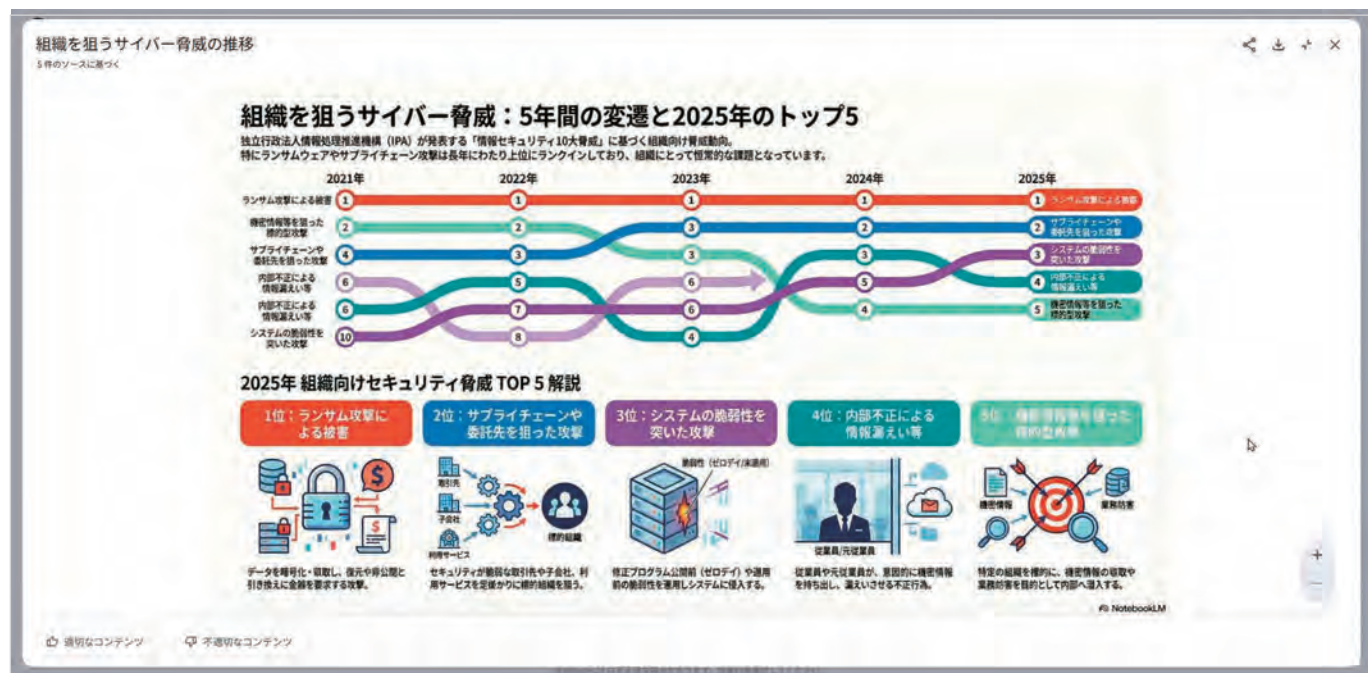


 **マインドマップ**
ソースに基づいたマインドマップを作成します。

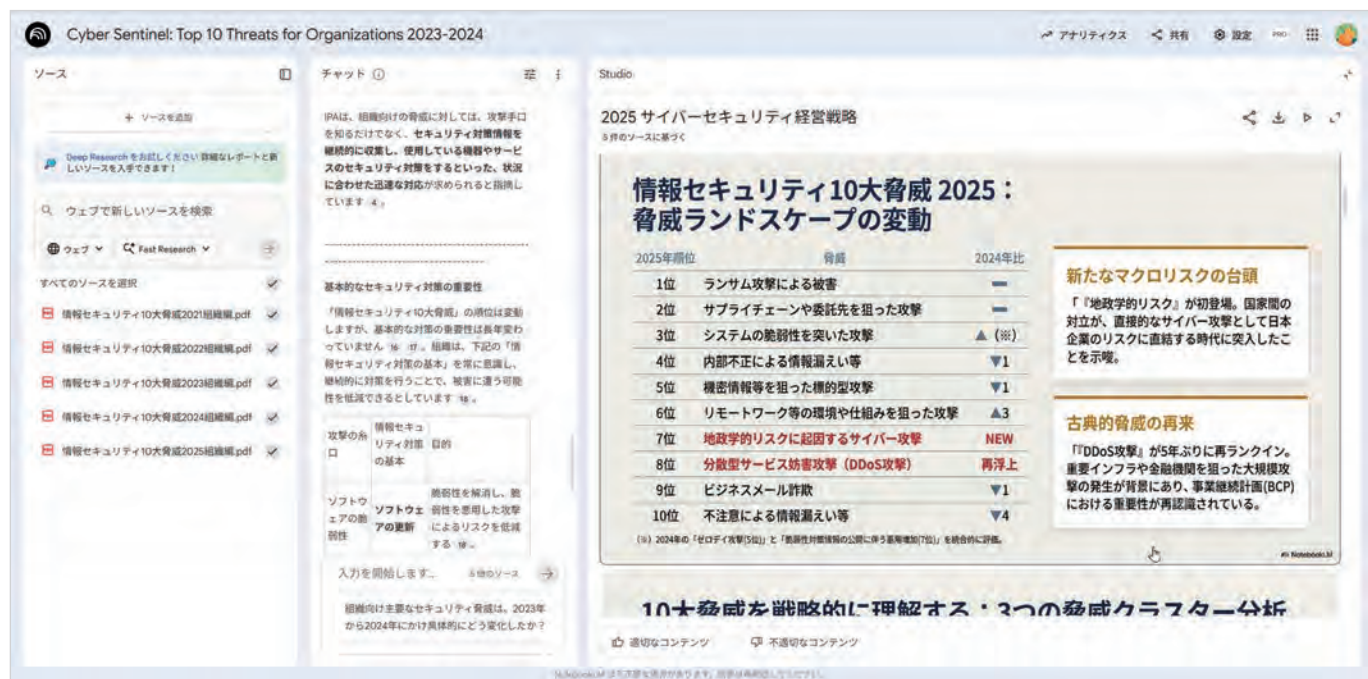
 **レポート**
ソースについてのレポートを作成します。

 **フラッシュカード**
ソースをもとにQ&A形式の暗記用のカードを作成します。カードの枚数や難易度も設定できます。

 **テスト**
ソースについてのテストを作成します。質問の数、難易度も設定できます。



インフォグラフィック
ソースの内容を要約した1枚のイラスト(インフォグラフィック)を作成します。



スライド資料
ソースの内容をまとめたスライド資料を作成します。

HINT
Data Tableも作れる
最新のNotebookLMでは、登録した資料をもとに内容を整理した表(Data Table)も作成できます。

第4章 その他の生成AIサービス

ChatGPT、Gemini、NotebookLM以外にも、さまざまな企業が生成AI/AIエージェントのサービスを開発・リリースしています。ここでは、主なサービスについて、特徴とできることを簡単に紹介します。

4-1 Genspark(ジェンスパーク) ~目的別のAIエージェントが豊富に揃ったAI検索エンジン

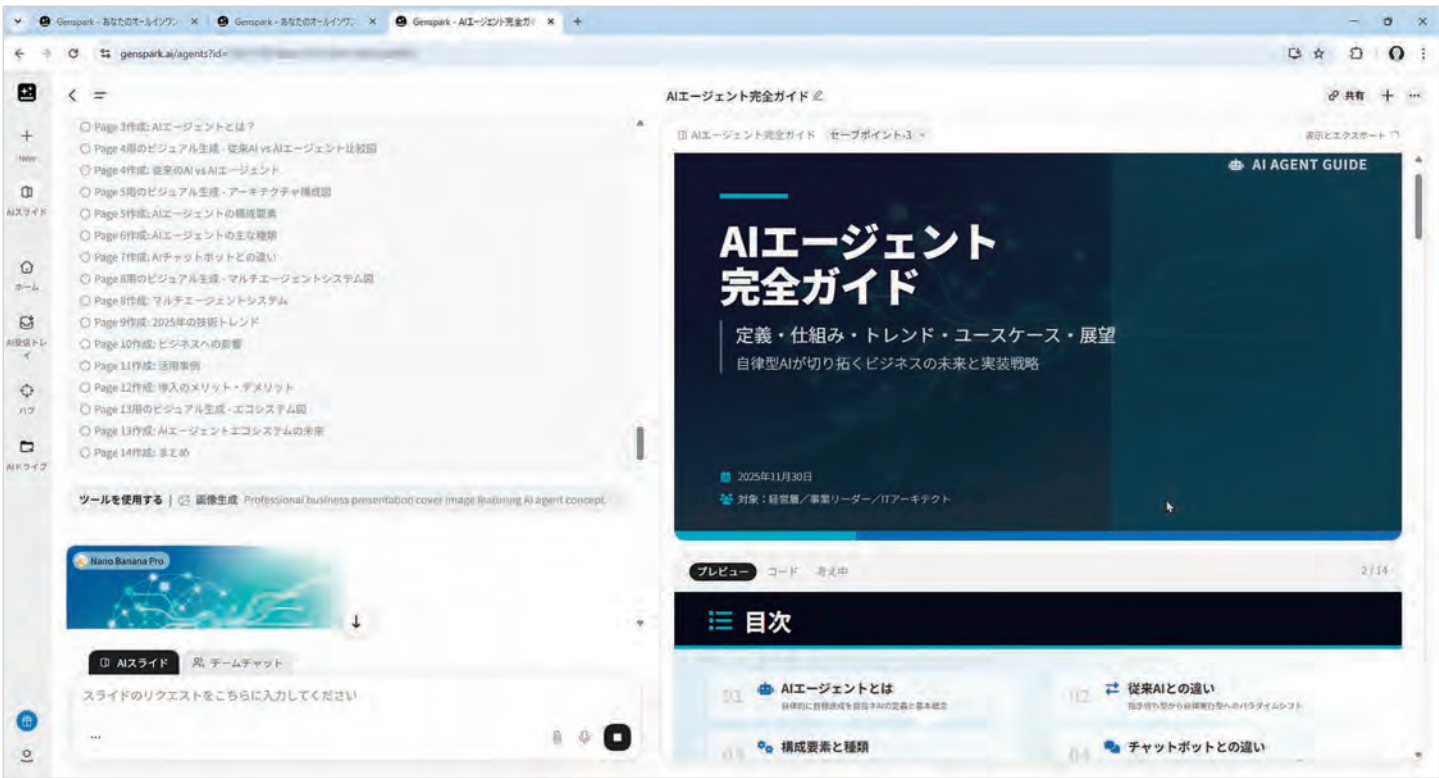
URL <https://www.genspark.ai/>

Gensparkは、米国MainFunc社が開発した次世代AI検索エンジンです。ChatGPTが一問一答を繰り返して深掘りしていくのに対し、Gensparkは複数のソースから情報を収集し、視覚的に整理した形で一度に提示してくれます。また、目的別のAIエージェントが多数用意されているのも特徴です。



Genspark。目的別のAIエージェントが多数用意されています。





AIスライドで作ったスライドの例です。「AIエージェントについて説明するスライドを作ってください」と入力しただけで、このようなスライドを作成できます。

Gensparkの主要な機能一覧

カスタムエージェント	ユーザーによって作成されたカスタムのAIエージェントを検索・利用できます。
AIスライド	1つのプロンプトからスライドを自動的に生成します。
AIシート	1つのプロンプトから表を自動的に生成します。
AIドキュメント	1つのプロンプトから文書を作成します。
AIデベロッパー	1つのプロンプトからWebサイトやWebアプリを構築します。
AIデザイナー	1つのプロンプトでポスター、ロゴ、Tシャツなどを作成します。
AIチャット	OpenAI、Claude、Geminiなどの複数のモデルを組み合わせてチャットできます。
AI画像	OpenAI、FLUX、Geminiのモデルを使って画像を生成します。
AI動画	Gemini、Kling、PixVerseのモデルを使って動画を作成します。
AI会議メモ	会議音声や内容からポイントを抽出して議事録を作成します。

4-2 Claude(クロード)
～ChatGPTやGeminiと並ぶ安全と信頼を重視する生成AIサービス

URL <https://claude.ai/>



もともとOpenAIにいた技術者が設立したAnthropic(アンソロピック)という会社が開発した生成AIです。最大の特徴は「Constitutional AI(憲法AI)」という独自のアプローチで開発されていることです。

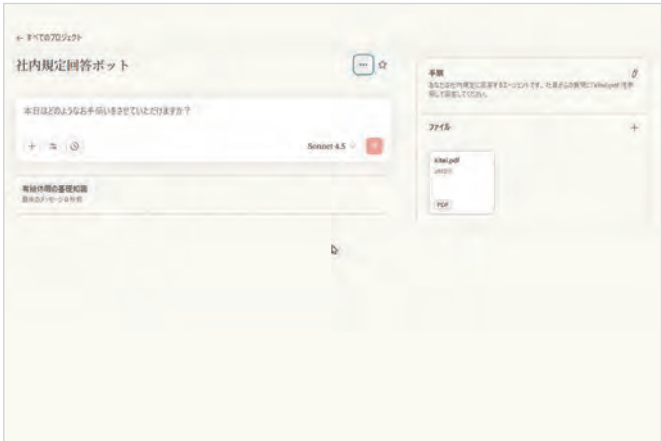
そこで重視されているのが、安全性、透明性、倫理的配慮です。無秩序に生成AIを開発するのではなく、それを利用する人間にとって安全で役に立つことを原則に開発されています。写真のような画像や動画を生成する機能はありませんが、それよりも「安全や信頼を優先している生成AI」を目指しているといえるでしょう。

使い方は、ChatGPTやGeminiと同様に、自然な言葉で質問するだけです。なお、独自のファイルやプロンプトを設定してカスタムのチャットボットを作れる「プロジェクト」、AIと会話しながら文書やゲームなどを開発できる「アーティファクト」という機能も用意されています。

無料でも利用できますが、より高性能なモデルや高度なリサーチ機能を使える有料プランも用意されています。



Claudeは安全性、信頼性を最優先に開発された生成AI



「プロジェクト」を利用すると、独自のファイルやプロンプトを登録してカスタムのチャットボットを作成できます。



「アーティファクト」を利用すると、AIと会話しながら文書やウェブサイト、ゲームなどを開発できます。

Perplexity(パープレキシティ) ～複数のモデルを組み合わせて多角的な調査が可能

URL <https://www.perplexity.ai/>

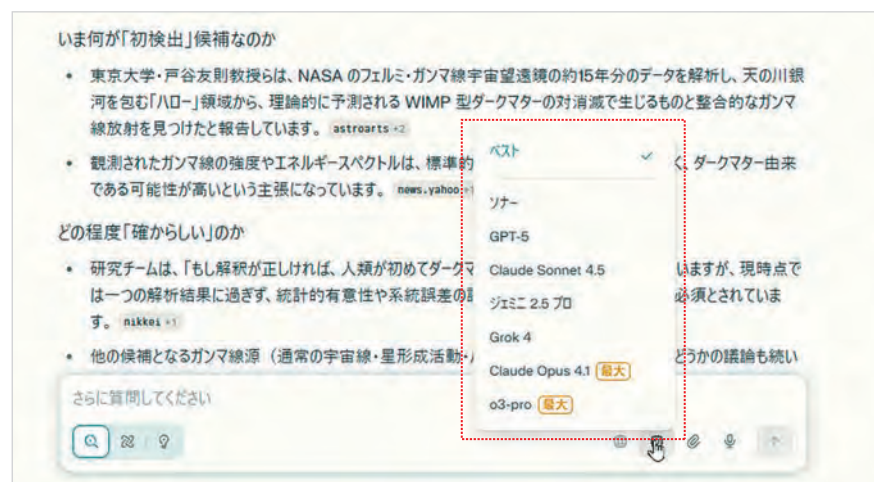


ChatGPTやGeminiと同様に自然文によるさまざまな質問に回答してくれるAIサービスです。質問すると、Webの最新情報の検索結果、複数のモデルによる回答を組み合わせて結果を表示します。情報源が明示されること、ログインしなくても利用できるのも特徴です。また、GPT-5やGemini2.5 Proなどの他企業のモデルを利用することもできます。

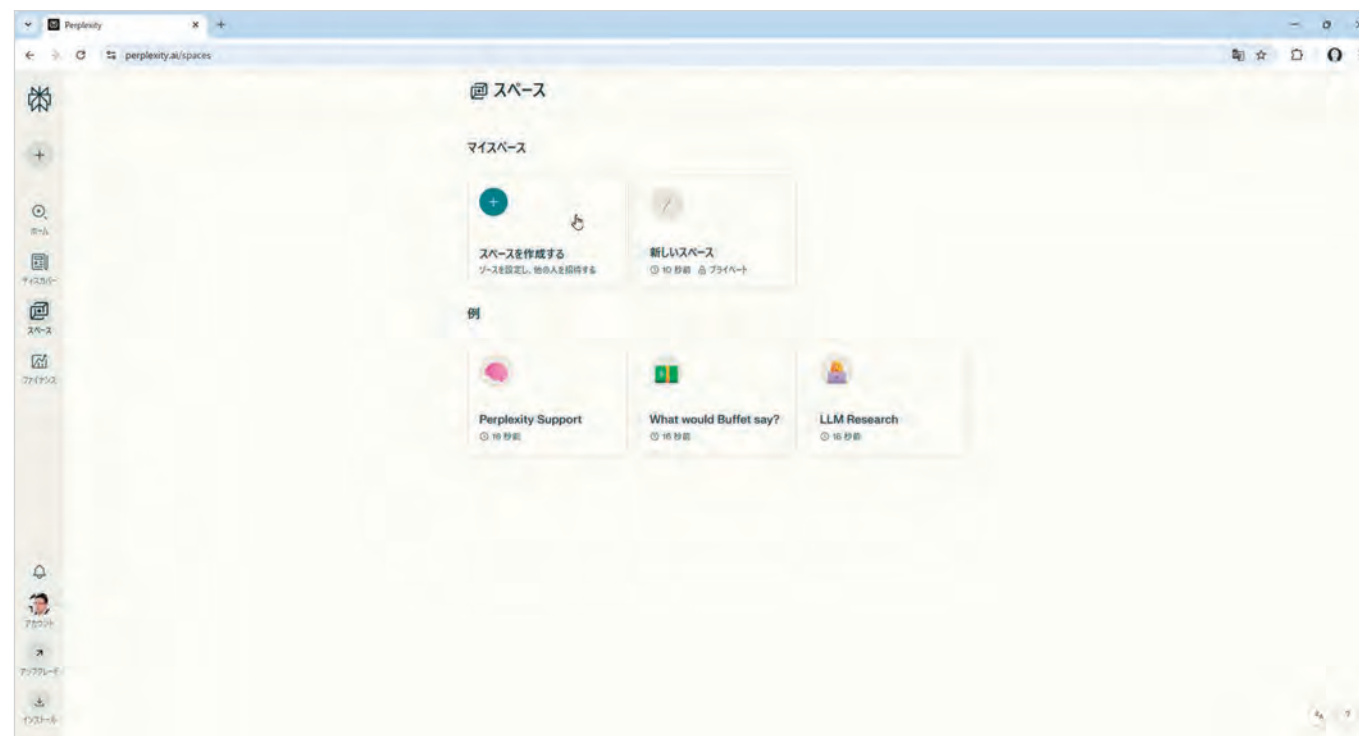
画像生成やディープリサーチなどの機能も用意されていますが、本格的に利用するためには、有料版を利用する必要があります。また、生成AI機能が組み込まれた独自Webブラウザである「Comet(コメット)」も提供されています。



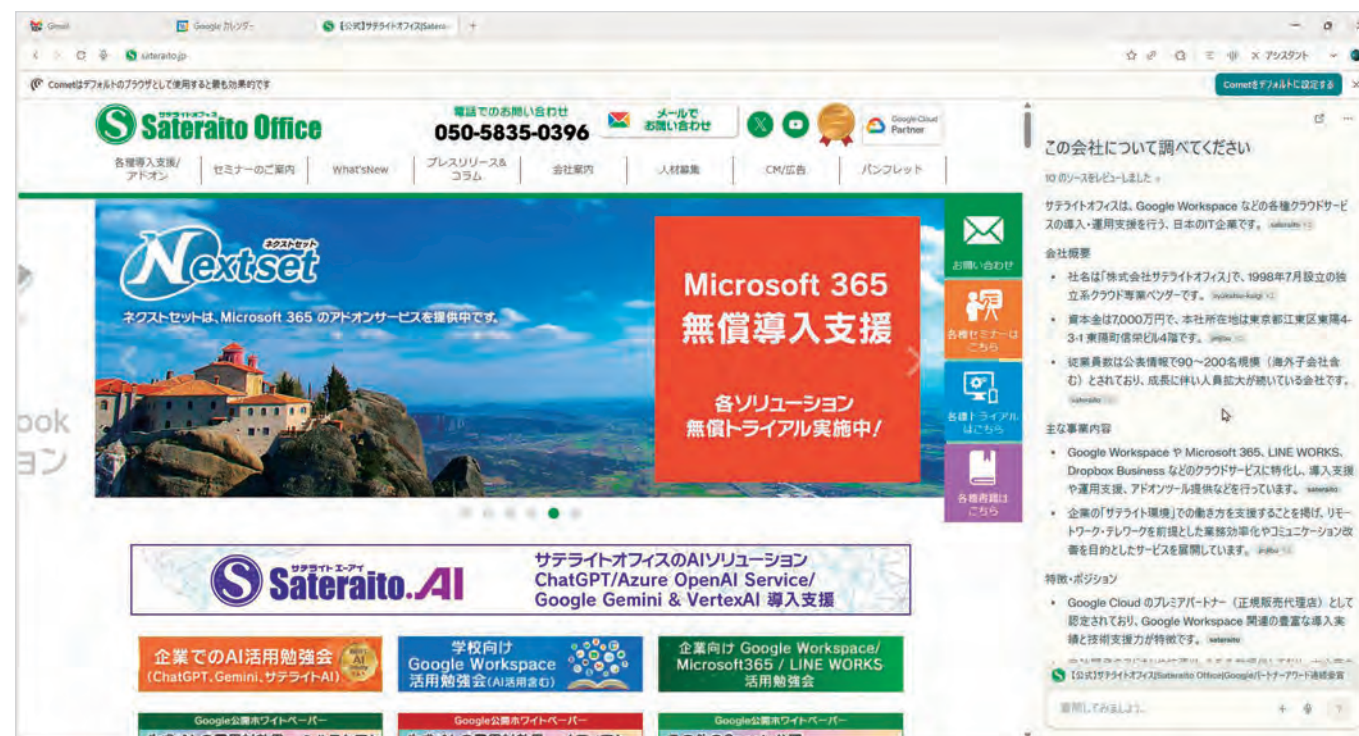
Perplexityは、Webの最新情報や複数モデルの回答などを組み合わせて質問に答えてくれます。情報源が表示されるのが特徴です。



他企業のモデルを選択することもできます。



ファイルやプロンプトを指定して独自のチャットボットを作る「スペース機能」も用意されています。



AI機能が組み込まれた独自ブラウザの「Comet(コメット)」も提供されています。

Manus(マナス) ～さまざまなタスクをこなす自律型AIエージェント

URL <https://manus.im/>

中国のスタートアップ企業であるButterfly Effectが開発した自律型AIのエージェントサービスです。ChatGPTのように対話もできますが、人間に代わって複雑なタスクを実行できる点が大きな特徴です。

たとえば、「AIの進化について説明するスライドを作って」と指示すると、作成に必要な情報を収集し、構成を作り、個々のスライドを作るところまでやってくれます。その他にも、ウェブサイト、ワークフロー、スプレッドシート、画像・動画なども簡単な指示を出すだけで作成できます。

無料版では一定のクレジットを使い切るまで利用できますが、同時に実行できるタスクやスケジュールされたタスクに制限があります。本格的に利用するなら、有料版がおすすめです。



Manusは「自律型AIエージェント」をうたっているサービスです。



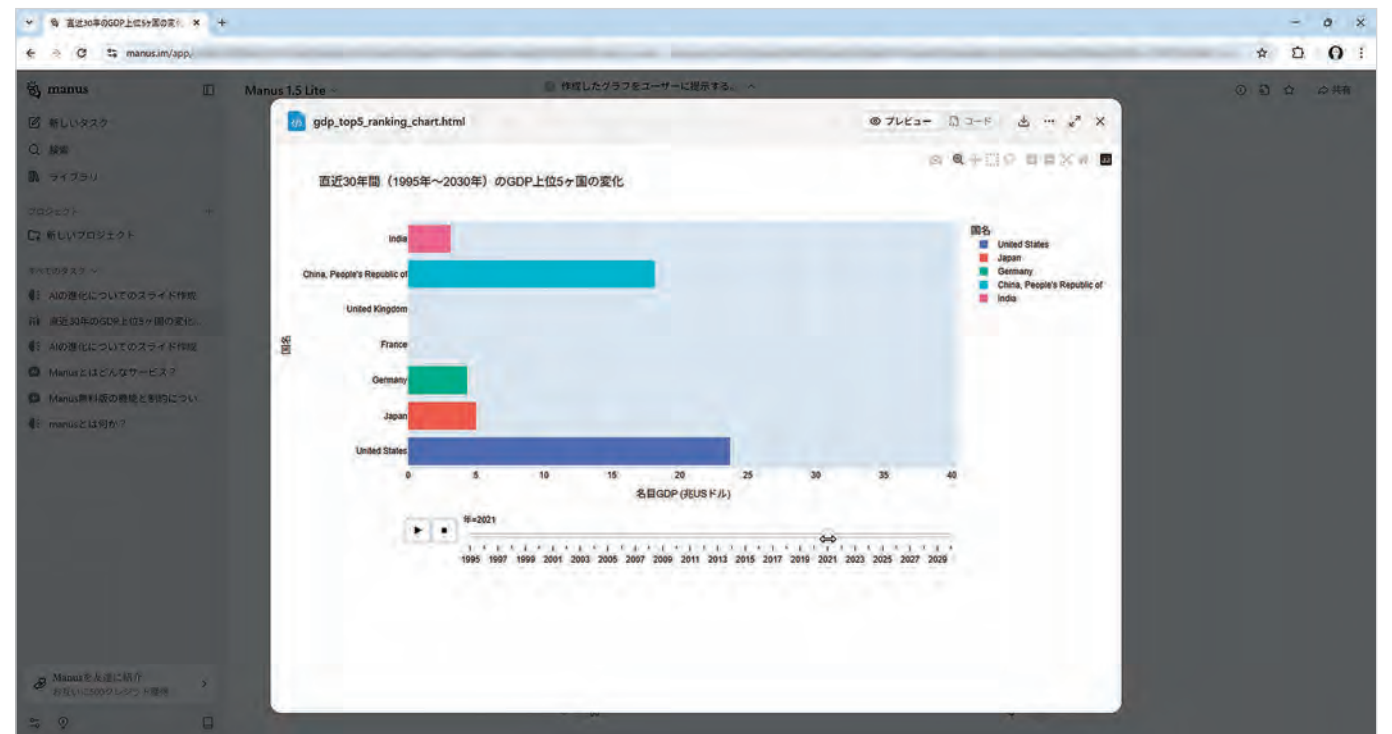
Meta(メタ)がManusを買収

Facebookで知られるMetaは、2025年12月、Manusを買収すると発表しました。

スライドを作る画面です。「AIの進化について説明するスライドを作って」と入力し、スライドのテンプレートを指定します。



このようなスライドが自動的に作成されます。



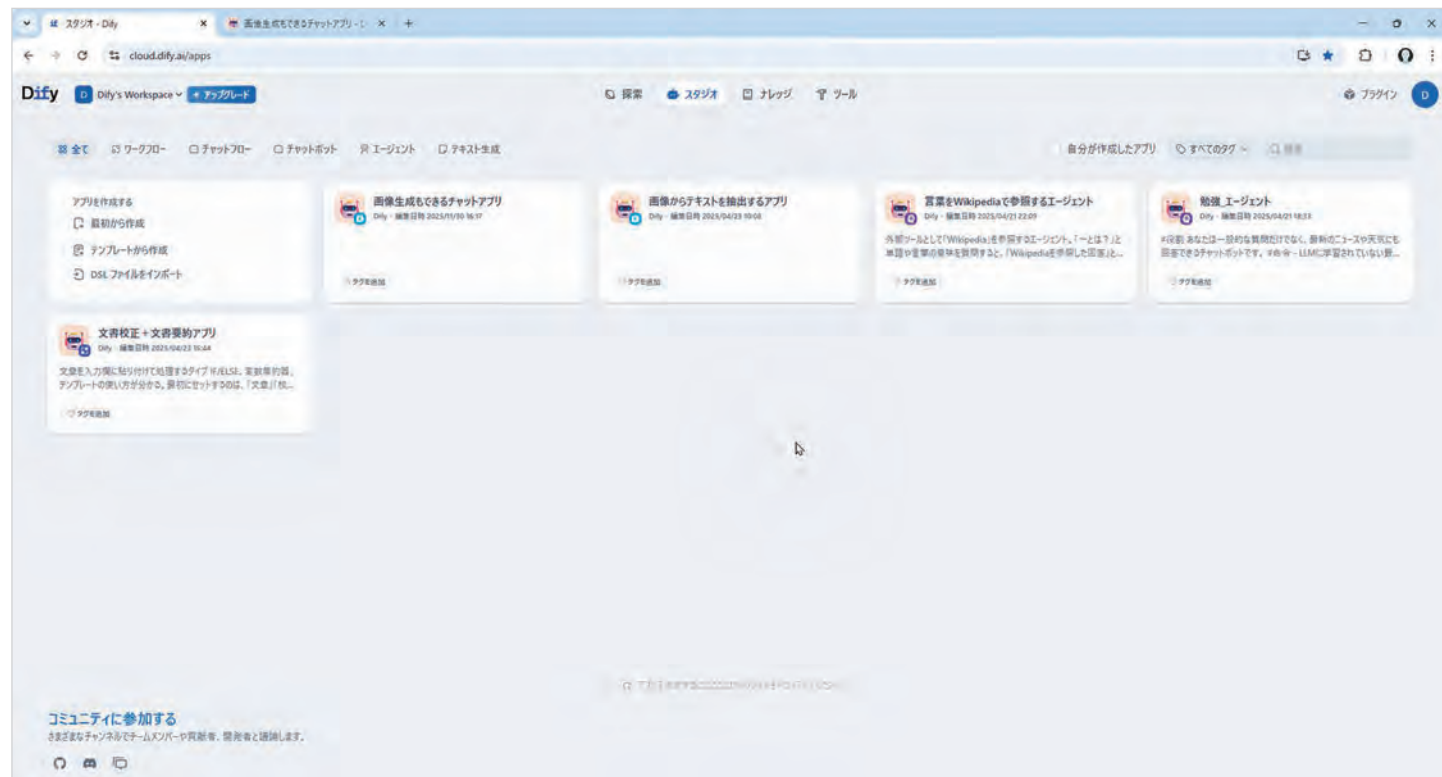
「直近30年間のGDP上位5ヶ国の変化を表すグラフを作ってください」と指示して作成されたグラフです。

Dify(ディファイ) ～ノーコード/ローコードの生成AIアプリ開発サービス

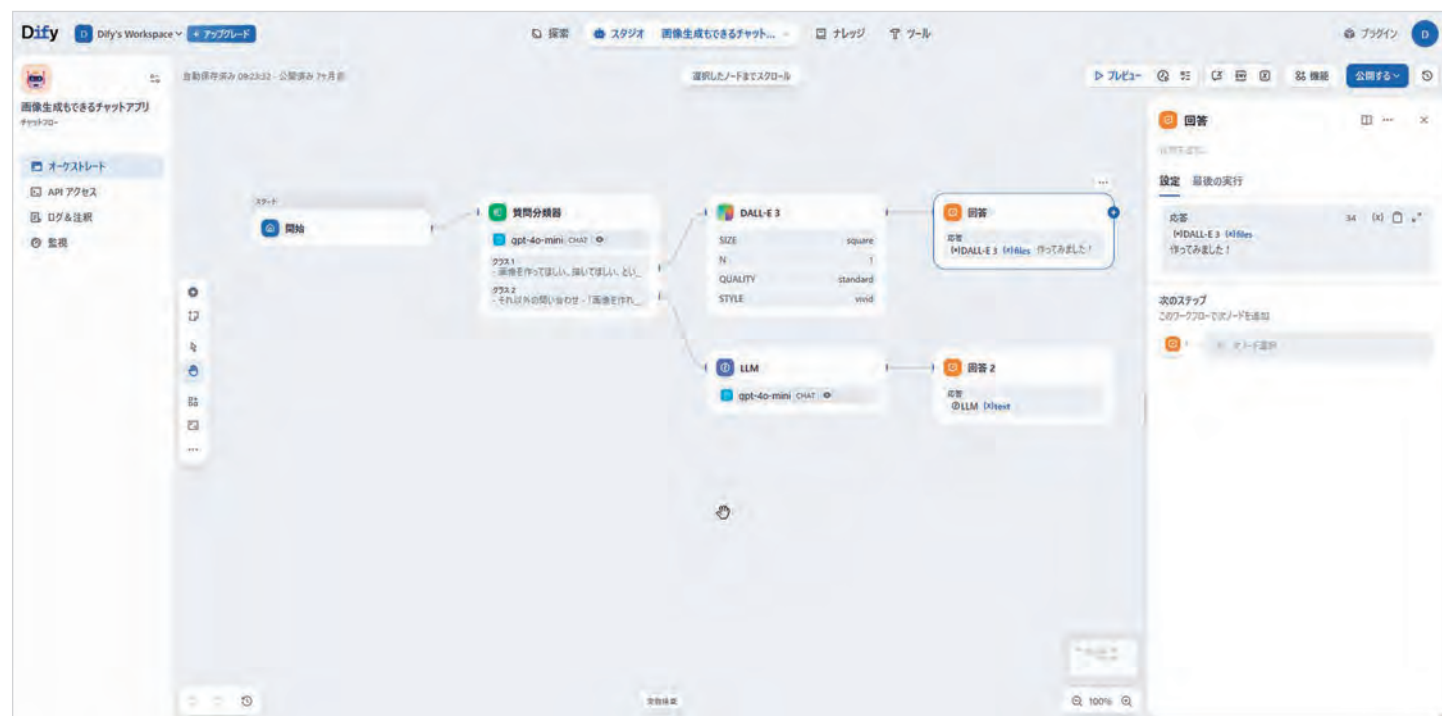
URL <https://cloud.dify.ai/>

Difyはノーコード/ローコードで生成AIアプリを開発できるオープンソースのツールです。OpenAIのGPT、GoogleのGeminiなどのモデルを組み合わせて、オリジナルのチャットボットや要約、翻訳、画像生成などのツールを開発することができます。

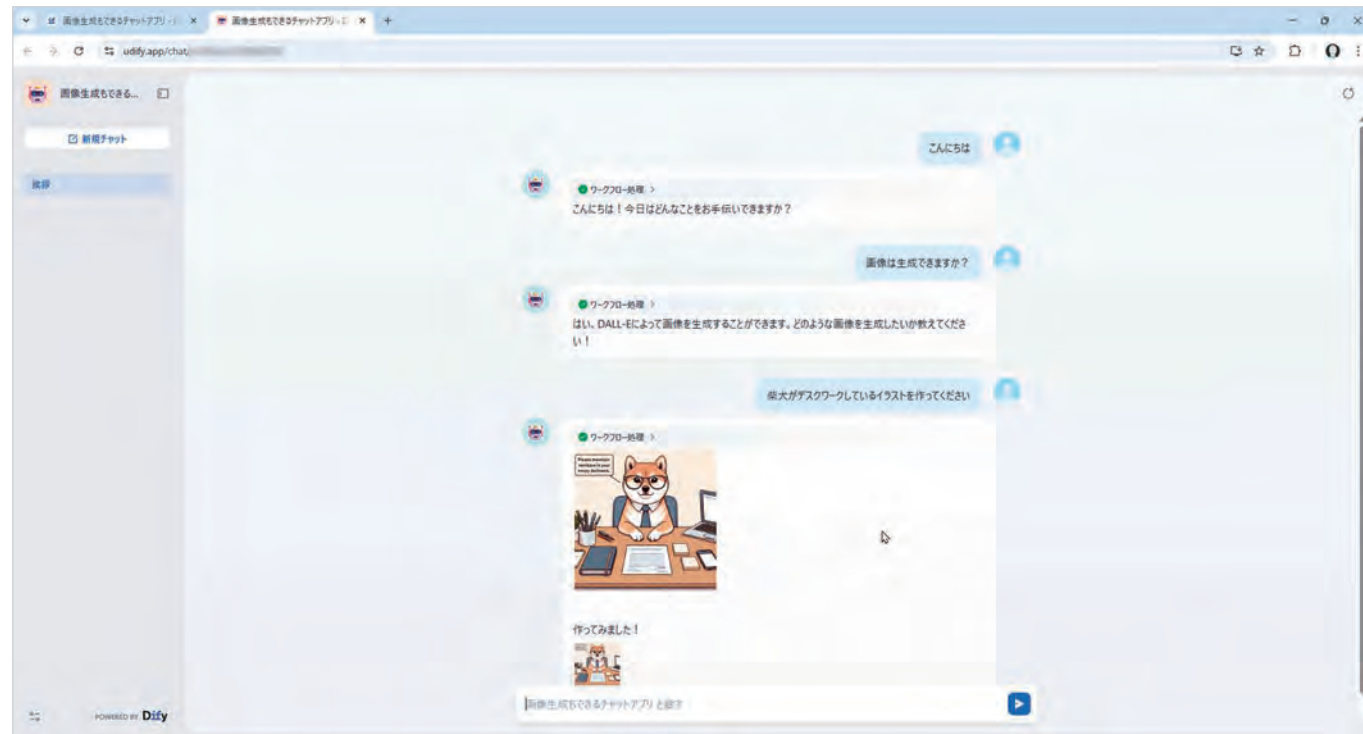
開発方法は、フォームに必要な情報を入力し、ブロックをつなぎ合わせていきます。なお、クラウドのサービスとしても提供されていますが、ツールをダウンロードして社内サーバなどのローカル環境で利用することもできます。



Difyのホーム画面。開発したツールが一覧表示されます。



Difyの開発画面。マウス操作でブロックをつなぎ合わせて処理を定義していきます。



Difyで開発した生成AIアプリの例です



モデルの登録が必要

DifyではOpenAIやGoogle、Claudeなどのモデルプロバイダーが提供しているモデルを利用します。このため、本格的にアプリを開発するには、利用したいモデルを提供しているモデルプロバイダーとの契約が必要になります。



サテライトオフィスのAIサービス

サテライトオフィスでは、ChatGPTやGeminiなどの生成AI/AIエージェントのサービスを企業で安心して活用できるように、さまざまなサービスを開発・提供しています。ここでは、主要なサービスを紹介します。

5-1 サテライトオフィスが提供しているAIサービス一覧(2026年1月現在)



AIボード

ChatGPTやGeminiのような使いやすさを保ちつつ、企業のセキュリティと管理要件を強化したAIソリューションです。最先端のLLM(大規模言語モデル)に対応し、社内データの活用からWeb情報連携、高度なセキュリティ機能まで、ビジネスにおけるAI活用を強力にサポートします。



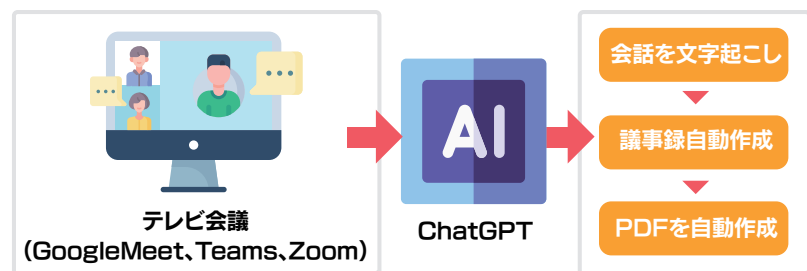
AIボード2

AIボードのセキュリティ機能はそのままに、Gmail/Outlook風インターフェイスにしたサービスです。さらに、ラベル/スター/フォルダ/アーカイブ/画面分割/チャット機能など機能拡張しています。



議事録作成AI

テレビ会議(GoogleMeet、Teams、Zoom)で、音声文字起こし(話者判定可)や議事録を作成できます。Chrome拡張(Chromeブラウザ/Edgeブラウザ)をインストールし、すぐに利用を開始できます。議事録はテキスト(クリップボードコピー)やPDFで作成が可能です。



AIドキュメント

ファイルをアップロードしたら、ChatGPTにその内容を質問したり要約したりできるようになるサービスです。マニュアルや論文、レポート等をアップロードすると、知りたい情報を素早く調べることができます。対応しているファイルは、Word、Excel、PowerPointのファイル、PDFファイル、テキストファイルです。なお、アップロードしたファイルは自動的にPDF化されます。



社内ドキュメントRAG学習 データ作成SDK

生成AIに社内情報などの独自データに基づいて回答させたいとき必要になるのが「RAG(ラグ)学習」です。これは「Retrieval-Augmented Generation」の略で、「検索で強化された生成」という意味です。RAG学習を行うためにはRAG用のデータを作成する必要がありますが、「社内ドキュメントRAG学習 データ作成SDK」は、そのRAG用データを作成するためのSDK(ソフトウェア開発キット)です。対応しているのは、次のサービスです。これらのサービスを利用している場合は、本SDKを利用することで、RAGデータの作成からデータのアップロードまでの作業を効率的に行うことができます。



- Azure OpenAI Service
- Google VertexAI
- OpenAI API Assistant API



社内チャットAI

企業利用チャット(Google Chat、Teams、LINE WORKS、Slack、Chatwork)から、各種AI&LLM(ChatGPT/AzureOpenAI/Gemini/Claude)にチャットで質問できる機能です。セキュリティが強化され、社内ドキュメントに基づいて回答するRAG学習にも対応しています。





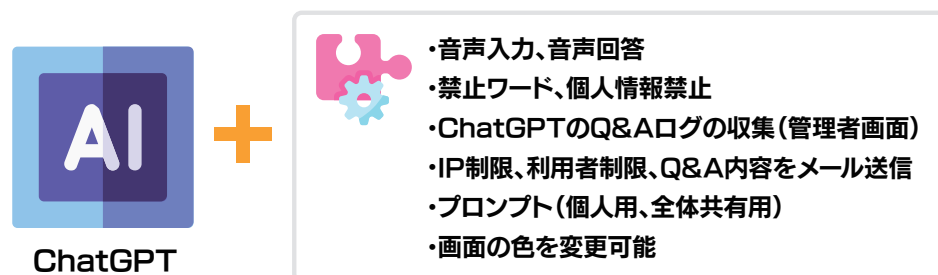
社内ポータルAI

ChatGPTが利用できる社内ポータルサイトの構築サービスです。ポータルサイトの右下にボタンが用意され、クリックするとウィンドウが開いてChatGPTに質問することができます。社内ポータル上にある社外に公開していないさまざまな情報を使ってChatGPTを利用できるので、サイト内のテキストを選択してそれについてChatGPTに質問したり、マニュアルや議事録などのファイルを使ってChatGPTに問い合わせたりできます。



プラグイン(Chrome/Edge対応)

Google Chrome/Microsoft Edgeの拡張機能です。ブラウザにインストールすると、ChatGPT/Gemini/NotebookLM/Perplexityを利用するとき画面にボタンが表示され、音声入出力や共有プロンプトの入力、禁止ワード設定などの管理機能が利用できるようになります。



AIメール

特定のメールアドレスに質問を書いたメールを送ると、ChatGPTによる回答が返信メールとして届くサービスです。たとえば、CCやBCCに関連するメンバーのアドレスを指定しておく、回答メールが全員に届くので、メンバー全員で情報を共有することができます。ChatGPTへの質問は、メール本文で「#ChatGPT」というタグで囲んで指定します。



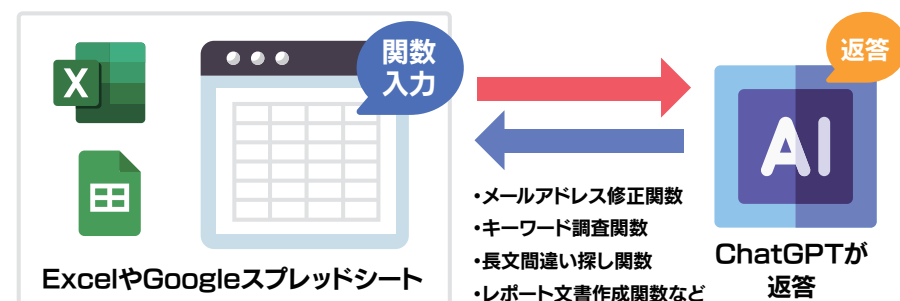
AI関数

ExcelやGoogleスプレッドシートで利用できるChatGPT対応の関数です。ChatGPTに問い合わせ得られた回答をセルに表示させることができます。たとえば、キーワード調査関数であるCHATGPT_ASK()の場合、次のように指定すれば、セルA1に入力されたテキストをプロンプトとしてChatGPTに問い合わせ、その回答を得ることができます。



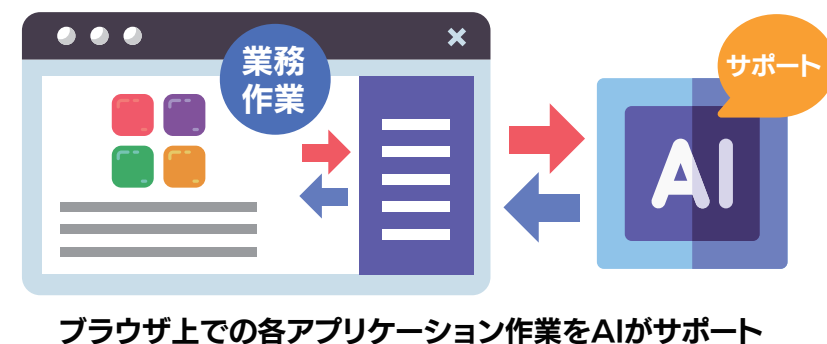
=CHATGPT_ASK("A1")

その他にも、文章を要約したり訂正したりする関数も用意されています。



サイドパネルAI

Google WorkspaceやMicrosoft 365、LINE WORKS、SlackなどをWebブラウザで利用しているとき、右側に生成AIのパネルを表示して、さまざまな作業を支援するツールです。利用するには、Google ChromeやMicrosoft Edgeの拡張機能をインストールします。インストール後、拡張機能を有効にすると、右側にウィンドウが表示されます。



クローズドAIボード

AIボードをオンプレミス環境、Microsoft Azure、Google Cloud、AWSなどの自社クラウド環境にインストールして利用できるサービスです。

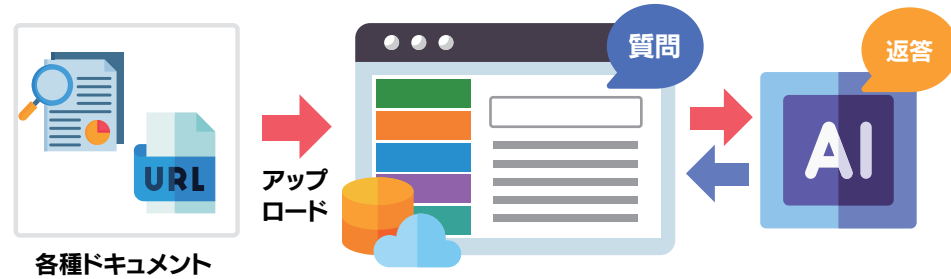




FAQ-AI

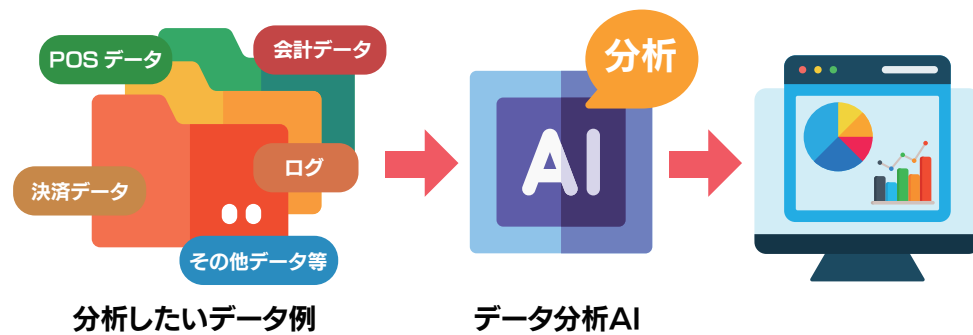
社内からのFAQを、以下の5種類の 방법으로処理できるサービスです。

1. 検索型FAQ: 管理者がQ & A情報を事前登録しておくことで、ユーザーは全文検索で回答を参照できる。
2. シナリオ型FAQ: 管理者が事前にQ & A情報とユーザーからの質問想定シナリオ(質問フロー)を登録しておくことで、ユーザーを最適な回答に導く。
3. AI型FAQ: 管理者がAIに学習させるドキュメントやURLをアップロードするだけで、AIが自動的に回答する。
4. 問い合わせをチャットで対応: 問い合わせに対してチャットで対応する。
5. 問い合わせを社内通話で対応: 問い合わせに通話(音声)で対応する。



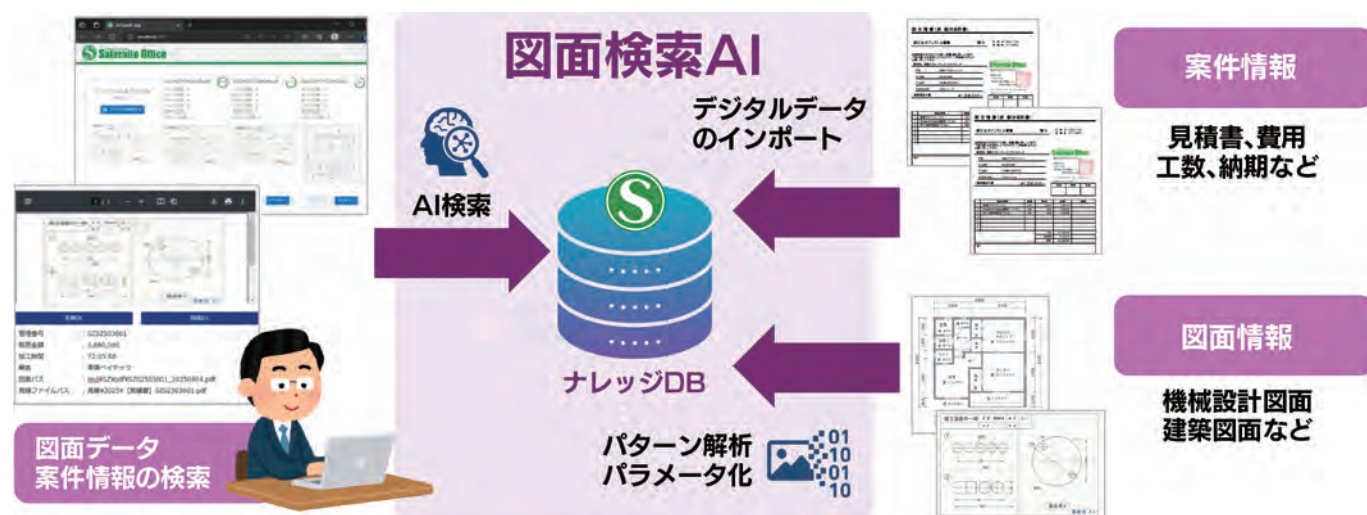
データ分析AI

文字データ(例: アンケート回答)や数値データ(例: 売上データ)をAIで分析するサービスです。Excel、Googleスプレッドシート、CSVデータ、Google Cloud、Microsoft Azure、AWSなどに蓄積したデータベースのデータを生成AIで分析できます。



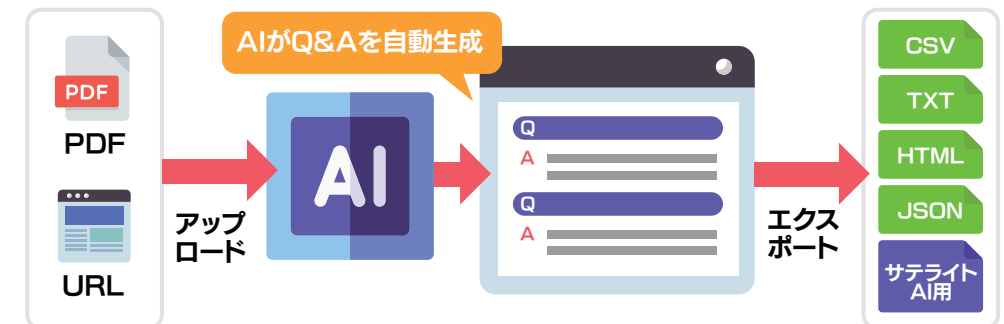
図面検索AI

さまざまな図面を登録して見える化し、検索できるようにするサービスです。アップロードした図面データをもとに過去の類似図面を検索したり、案件内容、費用、期間など、さまざまな角度から情報を抽出したりできます。製造業、不動産、建設・建築、病院、官公庁など、さまざまな業界の図面管理、利活用に貢献します。



Q & Aデータ作成AI

社内文書やWebサイトからQ & Aを自動生成するツールです。Microsoft Office製品、PDF、WebページのURLをデータソースとして指定でき、AIがQ & Aを自動で作成します。手動での追加・編集も可能です。作成したQ & Aはエクスポートでき、当社のAIチャットボット「サテライトAI」にインポートすることで、顧客対応や社内情報検索を効率化できます。



サテライトオフィスのAIエージェント「エージェントボード」とは？

「エージェントボード」は、サテライトオフィスが提供するAIボード等の機能を統合し、自律的なタスク実行を可能にする次世代のAI基盤です。従来の「質問に答えるAI」から一歩進み、社内システムと連携して「会議予約」「日報の集計」「メールの一次対応」などを、人の指示を待たずに自律的に判断・実行することを目指しています。サテライトオフィスでは、このAIエージェント機能を随時拡張し、企業の生産性革命を強力にバックアップしていきます。

※サテライトオフィスでは、ここで紹介した以外にもさまざまな生成AIサービスを開発しています。詳しくは、以下のページをご覧ください。



サテライト エーアイ
Sateraito.AI

Sateraito.AIのホームページ

https://www.sateraito.jp/sateraito_AI/index.html

